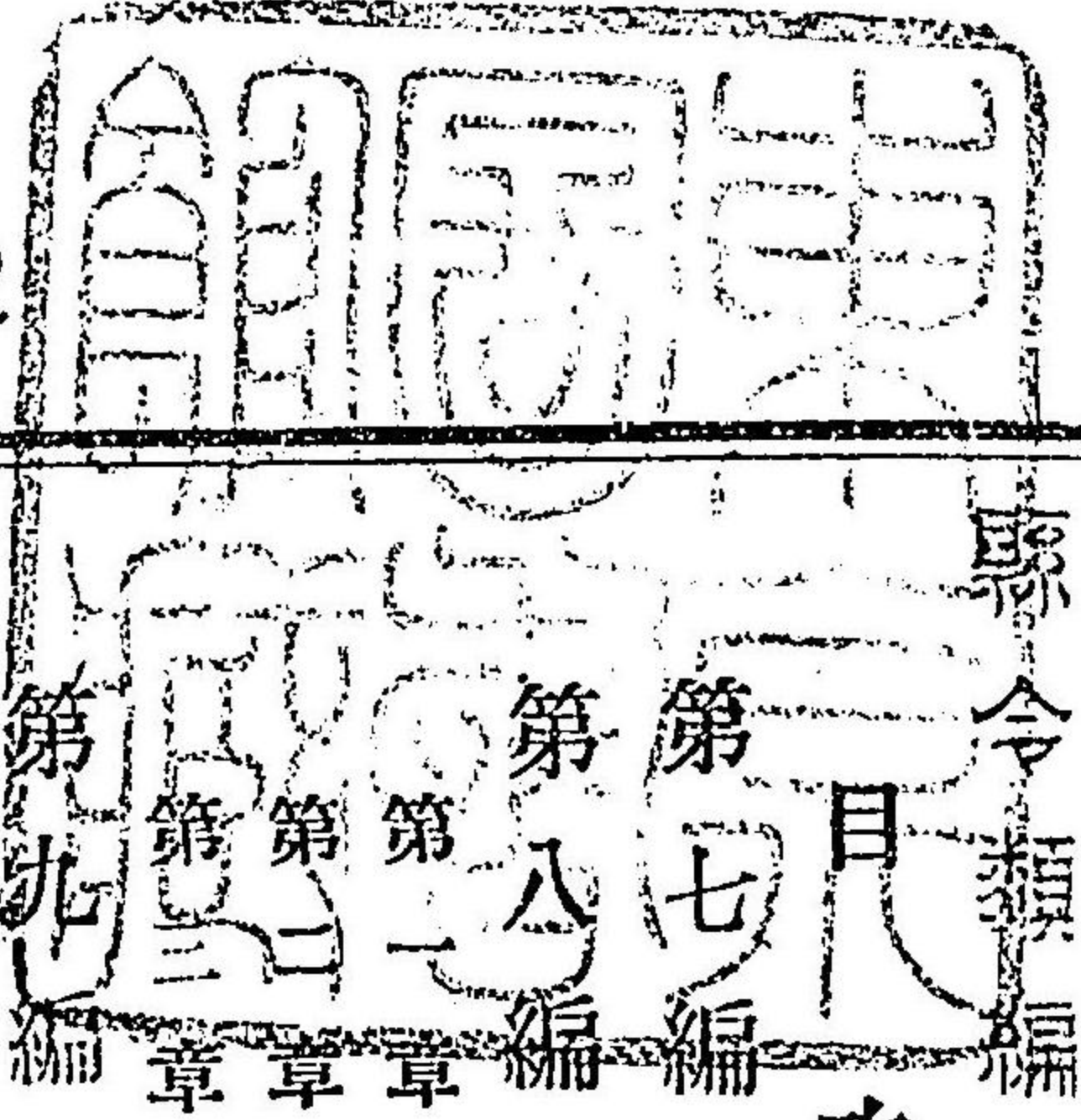


行現
縣
令
類
編
下卷

山
形
縣

CZ
1113
22-02



縣令類編下卷

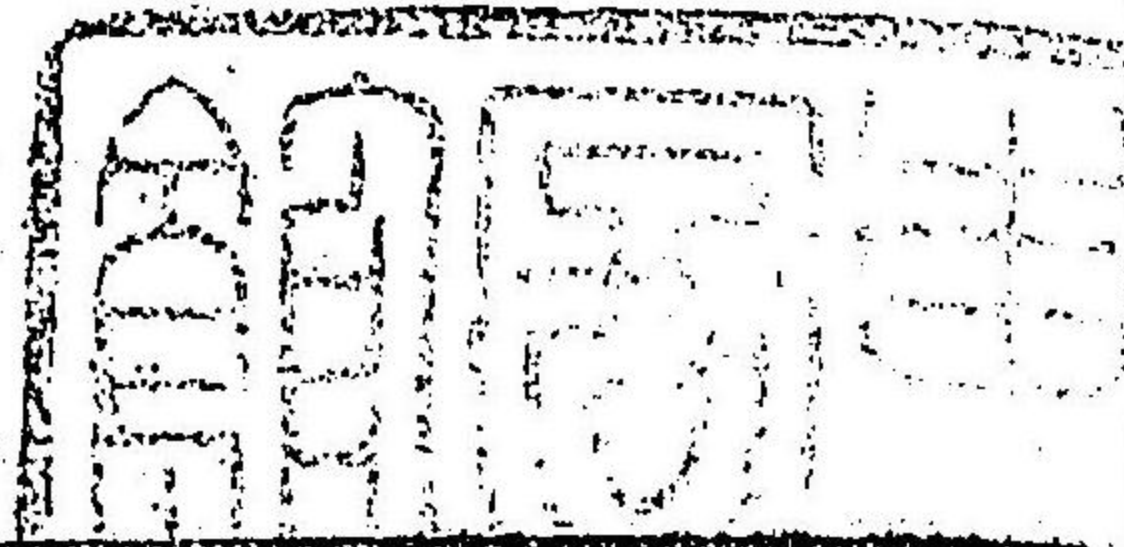
目次

第三章	第二章	第十一章	第三章	第二章	第一章	第十章	第九章	第八章	第七章	兵籍	徵兵	徵發	兵專會	社寺	會計	租稅外收入	縣稅	郡役所諸經費	警察	警察區畫	警務	取締規則
						現金前渡				事												
										一	二六	八七	九七	九九		一三七	一六八	二二二		二六八	三二六	三三八



目次

第十二編	租稅	四一九
第一章	地租	五二六
第二章	所得稅	五三五
第三章	營業稅	六六三
第四章	印紙	六七二
第五章	船車	六七三
第六章	雜件	



縣令類編

第七編 戶籍

○丙第二百一十一號 明治十二年十二月二十日

各郡役所

婦女再嫁ノ儀 離縁後十ヶ月ヲ經過スルニアラサレハ難差許儀ニ有之尤遺胎ノ徵候ナキ
 官醫師二人以上ノ保證有之ニ於テハ十ヶ月以内ト雖可開届等ニ付離縁再嫁或ハ後夫貰受
 出願有之節ハ厚シ注意ヲ不都合無之様可取計旨元戸長ニ爲念可達置此旨相達候事

○乙第十四號 明治十二年一月二十五日

幼少シテ家督相續爲致候節ハ後見人可相立等ノ處是迄撰定不致親族ニ於テ幼者ノ財産ヲ
 自由候者モ有之哉ニ相聞不都合ノ次第ニ付幼者ノ家督爲致候者ハ戸ノ内外ヲ不問親族會
 議ノ上幼者ノ身分家産ニ於テ有益ノ人物相撰ニ委任致シ其段戸長役場ニ可届出此旨布達
 候事

○丁第四十四號 明治十五年九月十四日

町村戸長

無籍者就籍之儀別紙内務省乙第三十九號之通被達候條典獄之書面持參之向ハ成規之通入
 籍取計其都度最寄警察署及分署等之内ニ通報可致此旨相達候事

○乙第三十九號 明治十五年六月二十九日

警視廳

戶籍

特 17
115

無籍在監人ハ在監中定籍ノ手續ヲ爲サシムルニ及ハス本人放還ノ時籍ヲ望ノ地ニ定メシメ典獄ヨリ就籍地戸長へ通知書ヲ作り本人ヲシテ携帶就籍ノ手續ヲ行ハシムヘシ此旨相違候事

但典獄ハ前年中監獄内無籍人ノ出入出生死亡ノ員數並ニ其年一月一日ノ現員ヲ毎年一月限リ在監地區戸長へ通知スヘシ區戸長ハ之ヲ受ケ該地ノ人口ニ算入スヘシ
○丙第十三號 明治十七年 一月十八日 郡役所

失踪逃亡死亡及絶家重罪輕罪ヲ受ケタル者ノ財産ヲ戸長ニ於テ保管スルトキハ財産目錄ヲ作り郡長ニ差出候様可致此旨相違候事
○丙第四十九號 明治十七年 二月二十八日 郡役所

單身戸主死跡相續之儀ハ親戚ヨリ早速相續人ヲ申立サルトキハ戸長ヨリ直ニ親族へ尋問ノ後親族又ハ故友ノ申立ルモノ無之ニ於テハ死亡届ヲ受ケシ日ヨリ六ヶ月ヲ經過シ絶家ノ所分ニ可及儀ト可相心得此旨相違候事
○丙第一百十八號 明治十八年 五月十五日 戸長役場

郡役所 戸長役場
亡兄ノ遺妻其弟ト結婚之儀ニ付追々及指令置候向モ有之候處以後其事實ヲ詳具シ本廳へ可爲願出^{正副三通}此旨相違候事
但本條至重ノ事故アルモノ、外ハ容易詮議難相成筋ニ候條其旨可相心得候事
○丙第七十七號 明治十八年 七月九日 郡役所 戸長役場

遺留財産取扱方自今左ノ通心得ヘシ
但本文ニ抵觸スル從則ノ指令ハ取消ス
第一條 死亡若クハ全戸失踪逃亡シテ遺族親族之レナキモノ、遺留財産ハ戸長ニ於テ保管シ若シ右ノ者負債之レアリ債主ヨリ償却ヲ求ムルトキハ總テ裁判所ノ處分ニ任セ戸長ハ之レヲ保管スルニ止マルヘシ

第二條 右遺留財産ノ内國稅又ハ地方稅町村費等ヲ賦課セラレタルモノ、(地所建物船舶ノ類)其納稅等ノ期ニ臨ミタルトキ或ハ腐敗朽損スヘキモノ或ハ長大ニシテ保管スルニ費用ヲ要スルモノハ郡長ノ許可ヲ得テ公賣シ右ニ關スル費用及ヒ公賣迄ノ保管費等ヲ引去リ殘金ヲ保管シ置クヘシ
但公債證書等ノ利益ヲ生スルモノアルトキハ之レヲ領收シ同ク保管シ置クヘシ

明治十七年四月十三號

明治十八年十月三十一日
第二百三十四號

明治二十一年八月二十五號
訓令第二十五號

第三條 死亡ノ者埋葬等ノ入費遺留財産ノ内ヨリ引去リ若シ金錢之ナキトキハ戶長ニ於テ適宜物品ノ内ヲ公賣スルコトヲ得ヘシ

第四條 遺留財産ノ内貸金證書之アルトキハ戶長ヨリ負債主ヘ督促スルモ之レニ應ゼス出訴期限ニ迫ルカ若シハ負債主破産ノ恐アルトキハ裁判所ヘ勸解ヲ乞ヒ又ハ出訴シ之レニ關スル費用ハ遺留財産ノ内ヨリ引去ルヘシ

第五條 戶長ニ於テ保管スル死亡者ノ遺留財産ハ死亡ノ日ヨリ滿五ケ年ヲ經過シタル上ハ之レヲ沒收シ地方稅雜收入ニ相納ムヘシ

第六條 戶長ニ於テ保管スル失踪逃亡者ノ遺留財産ハ除籍ノ日ヨリ五ケ年ヲ經過シタル上ハ之ヲ沒收シ地方稅雜收入ニ相納ムヘシ

第七條 親族アルモ遺留財産ノ處分ニ關係スルヲ欲セスハ戶長ヨリ説諭スルモ應ゼサルトキハ後日右ニ關シ異議ナキ旨ノ書面ヲ徴シ戶長ニ於テ前條々ニ準シ取扱フヘシ

第八條 親族ニ於テ保管スル遺留財産ヲ本人又ハ其家ノ利害ニ關シ之ヲ處分セントスルトキハ都テ其協議ニ任スヘシト雖モ不動産ノ處分ニ付テハ所管裁判所ノ認可ヲ受ケシムヘシ

但死亡者ノ遺留財産ニシテ五ケ年ヲ過キタルモノハ官ノ干渉スルモノニアラス

第九條 親族ニ於テ保管スルモノハ財産目錄ヲ差出サシムルニ及ハス

第十條 親族中遺留財産處分方ニ異議アリテ協議整ハサルトキハ裁判所ノ處分ニ任スヘシ

第十一條 遺留財産中應禁物有之トキハ戶長ヨリ之レヲ警察署ニ送致スヘシ

右相違候事
○丙第二百六十九號 明治十八年十二月十五日

郡役所
戶長役場

華族ノ輩養子女縁組離縁復籍及貫屬替轉居等ノ節送入籍ノ手續ヲ了シ候ハ、其郡長ヨリ直チニ宮内省華族局ヘ通牒可致此旨相違候事

○丙第六號 明治十九年五月十三日

郡役所
戶長役場

兒子出產ノ後名稱ヲ付セサル以前死亡シタルモノ届出ノ節戶籍簿ニ記載スヘキ筈ニ候處記載漏ノ向モ有之哉ニ相聞ヘ不都合候條爾後注意ヲ加ヘ該簿ヘ左記雛形ニ照準記載スヘシ
右相違ス

某

明治何年月日出生之處
同月同日死亡

何男 女

○縣令丙第二十四號 明治十九年十二月三日

郡役所
戸長役場

内務省令第十九號寄留者ニ關スル事項左ノ通取扱フヘシ
内務省令第十九號第五條但書ニ依リ本籍外ノ者ヨリ差出シタル届書ハ左ノ如ク取扱フヘシ

一寄留者ニ係ル届書ハ寄留簿ニ登記シタル上入寄留届書ト合綴スヘシ但出產ニ於テハ別ニ入寄留届ヲ爲サシムルニ及ハス

一寄留ニ非サル者ノ届書ハ總テ便宜編綴スヘシ

同令第六條ノ入寄留届書第七條ノ寄留者退去届書及第八條ノ寄留者復歸届書ハ類集編綴スヘシ

全令施行以前ニ於テ出入寄留ノ届出ヲ爲シ現ニ出入寄留ノ記載アル者ハ本籍地ニ於テハ出寄留者ノ留守引受人又ハ其戸主入寄留地ニ於テハ地主又ハ其地所其家ヲ管理スル者ヲ取調タル上出入寄留簿ヲ製頓スヘシ

○縣令丙第二十七號 明治十九年十二月六日

郡役所
戸長役場

今般内務省令第二十二號ヲ以テ戸籍取扱手續定メラレ候ニ付テハ登記書式其他左ノ通相定ム

明治二十九年八月十日
訓令第九十五號

但明治十九年(七月)收第二十六號達戸籍加除取扱手續ハ本文施行ノ日ヨリ廢止ス
一戸籍登記書式等ハ内務省訓令第二十號(官報第九百九十號ニ登載)ニ依リ取扱フヘシ
一戸籍簿及副本調製ノ義ハ本月三十一日現在人員ヲ根據トシ改正用紙ニ登記スヘシ
但副本ハ明治二十年三月限郡役所へ差出スヘシ
一戸籍取扱手續第二條第十五條ニ據リ郡役所ニ納ムル處ノ戸籍副本及諸届ハ之ヲ保存スルニ止メ加除異動ヲ登記スルニ及ハス又寄留ニ關スル届書ハ郡役所ニ送付スルニ及ハス

一送籍狀及入籍報知書ハ左ノ書式ニ準ヒ取扱フヘシ

但全戸送籍ノ場合ニ於テハ現在人員ノ外嘗テ該家ノ戸主トナリタル男女或ハ嗣子承祖ノ孫及相續人トナリタル男子ニシテ死亡廢嫡若クハ他へ移籍セシ者ハ其當時ノ戸籍又ハ徵兵ニ關スル事項及陸海軍々籍ニ關スル必要ノ事項又處刑ヲ受ケタルモノハ其刑名及宣告年月日ヲ別紙ニ記載シ送籍狀ニ添付スヘシ

割。第何號 本番號ハ登記目録ノ番號ヲ用井役場
印ヲ以テ登記目録ト割印スヘシ (印ハ朱書)
全戸ノ送籍狀書式

何縣何郡何村何番地

平民

前戸主 亡父氏名

何年何月何日相續何年何月何日願濟改名、何年何月何日願濟復姓

戸 亡父名長男

舊姓號

舊名

戸籍

七

元何府何區何町何番地
平民氏名二男

名

右何年何月何日付第幾號送籍狀ニ照查シ昨日管內何町何番地士族氏名養子ニ入籍取扱候
此段及報知候也

年月日

何縣何郡何町戶長氏名

名

何府何區長氏名殿

明治二十一年一月十一號
訓令乙第二十號

- 一 戶籍ニ記載スヘキ番地ハ宅地々券番號ヲ用フルモノトス
 - 一 一筆ノ宅地内ニ數戶アルモノハ其番地ヲ記載スルノ外每戶ニ番號ヲ附シ之ヲ區別スルコトヲ得
 - 一 一町村内ニ同一ノ番地アルトキハ甲乙丙等ニ區別スヘシ
 - 一 一戶ニシテ數番地ニ跨ルモノハ其番號ヲ列記(一二三番地ト記スルノ類)スヘシ
 - 一 明治十九年内務省令第二十二號戶籍取扱手續第七條ニ依リ郡役所ニ於テ戶籍簿檢査ノ際ハ原戶籍簿ニ照合スヘシ
- 縣令丙第三十五號 明治十九年十二月二十四日

郡役所
戶長役場

本年(九月)内務省令第十九號第六條第七條ニ有之地主又ハ家主又ハ其地所其家ヲ管理ス

ル者ヨリ差出スヘキ寄留ニ關シタル届書ハ人民ニ貸付シタル官有地(官有地第三種及社寺境内地)ニアリテハ其地ニアル家屋所有主又ハ其家屋管理人ニ於テ引受差出スヘキ旨借地人ニ達スヘシ

○訓令乙第三號 明治二十年一月十三日

郡役所
戶長役場

明治十九年内務省令第十九號中寄留届取扱方左之通心得ヘシ

- 一 内務省令第十九號第六條ニ依リ寄留ノ届出ヲ爲ス場合ニ於テ公使館又ハ居留地外國人所有ノ家屋ニ寄留シタル者ハ本人(幼者ハ後見人又ハ親族)ノ届出ノミテ以テ其手續了了シタルモノトシ其第七條寄留地ヲ去リ本籍地ニ復歸又ハ他ニ寄留シタルノ届書ヲ本籍戶長ニ於テ受領シタル時ハ其旨該戶長ヨリ前寄留地ノ戶長ニ通報スヘシ
- 一 陸軍校團生徒隊ニ屬スル馬丁ハ在屯營下士卒同様看倣シ現在地ニ於テハ其出入調査ヲ要セス本籍地ニ於テハ傭人又ハ解傭ノ通知若シハ届書ヲ受領シタルトキハ戶籍取扱手續ニ依リ出寄留簿ヲ加除シ戶籍表調製ノ節ハ之ヲ第二人口出入表出寄留ニ算入スヘシ

○訓令乙第十七號 明治二十年二月十四日

郡役所
戶長役場

同郡内又ハ同町村内ニ於テ甲ノ地ヨリ乙ノ地へ出入寄留ニ係ル者ノハ明治十九年(九月)内務省令第十九號ニ準シ戸長役場へ届出ヲ爲サシムヘシ

○訓令乙第六十號 明治二十年十二月三日

郡役所
戸長役場

管下在籍ノ有位者(華族ヲ除ク)改名貫屬替又ハ死去セシトキ其願届ヲ取扱タル郡長ヨリ直チニ宮内省華族局へ通牒スヘシ

但戸長ノ取扱ニ係ルモノハ郡長へ報告シ郡長ヨリ本文ノ通取計フヘシ

○訓令乙第九號 明治二十一年四月十二日

郡役所
戸長役場

戸主死亡后五十日ヲ過キ猶跡相續ノ届出ヲ爲シ能ハサル事情アルモノハ相當ノ延期ヲ遺族ヨリ願出サシムヘシ

○訓令乙第三十二號 明治二十一年十月十一日

郡役所
戸長役場

明治二十年(九月)訓令乙第四十八號分家ノ際携帶子女稱呼等ノ儀左ノ通り改正ス

一 退隱者本家ヨリ二三男女ヲ携へ分家シタル場合ハ其携帶子女ハ本家ノ列次ニ從ヒ二

二 三男女ト稱シ分家後出生ノ子女ハ右ニ次キ四五男女ト稱スヘキモノトス

二 右ノ場合ニ於テハ本家ヨリ携帶ノ二三男ニ於テ其分家ノ繼承權ヲ有スルモノトス

○訓令乙第四十二號 明治二十一年十一月十八日

郡役所
戸長役場

親族又ハ戸長ニ於テ保管スル失踪逃亡並死亡者ノ遺留財産處分ニ付從前始審裁判所ノ認許ヲ經タルモノハ自今始審裁判所所在地ヲ除ク外管轄治安裁判所ニ認許ヲ乞フコトヲ得ヘシ

○訓令第十九號 明治二十二年七月三日

郡役所

無籍者ノ就籍及戸籍上誤謬ノ訂正ハ各自權利ノ得喪ニ大ナル關係ヲ有スルニヨリ右ニ關スル諸願ハ其事實ヲ糾明シ單ニ證人等ノ申立ノミナラス必ズ書類物件等確乎タル證據ヲ添付セシメ郡市長ノ意見書ヲ付シ進達スヘシ

○訓令第七十號 明治二十三年十月十三日

郡市役所
町村役場

戸籍表式別紙ノ通改正ス

戸籍表式取調規則

一 市町村於前別紙様式ニ從ヒ之レテ調査シ毎年（第八表ハ十九年第一回調）一月三十一日限リ發送報告スヘシ

但町村ハ郡役所ヲ經由スヘシ

一 郡役所ニ於テハ町村ノ報告表ヲ審査シ前年分ト對比増減等ヲ明クニシ各表ノ統計表ヲ製シ之レヲ添付シ二月二十五日限リ縣廳ヘ進達スヘシ

一 諸表様式ニハ横線ノミヲ示シタルモ進達ノ表ニハ縦線ヲ加フヘシ又數位ハ千位ニ付テシ登記スヘキ事項ナキ空欄ニハ縦線ヲ填充シテ脱漏ニ非サルヲ證スヘシ

（別紙）

用紙美濃紙以下各表同シ

第一 戶口表

明治何年十二月三十一日現在

市町村名

本籍人	男女	合計	現在戶數
	男		
	女		
	合計		

一 現住戶數ヲ欄ニハ本籍人ト本籍ニ非サル人ト又戶主タル者ハ戶主タラサル者トナ問

ハス渾テ其地ニ現住シテ一世帯ヲ爲ス竈數ヲ記入スヘシ但官舎社寺學校病院製造所等ノ構内ニ居住スルモ別ニ一竈ヲナス者ハ又一戶トシテ之ヲ記入スヘシ

一 町村制第十六條第二項ニ依リ町村ノ組合ヲ設クルト雖トモ一町村毎ニ製表シ町村名ノ肩ニ何町村組合ト記載スヘシ以下各表モ之ニ倣フ

第二 人口出入表

明治何年十二月三十一日現在

市町村名

出				入			
外國行	他府縣	他郡市	他町村	陸海軍在	囚入及	失蹤	他府縣
出寄留	出寄留	出寄留	出寄留	營艦者	懲治人		入寄留
							他郡市
							入寄留
							他町村
							入寄留

一 外國行ノ欄ニハ外國ニ行キタル者又他府縣出寄留ノ欄ニハ他府縣ニ出テ住スル者又他郡市出寄留ノ欄ニハ本縣内ノ他郡市ニ出テ住スル者又他町村出寄留ノ欄ニハ一郡内ノ他町村ニ出テ住スル者ヲ記入スヘシ

一 陸海軍在營艦者ノ欄ニハ歸休兵ヲ除キ現ニ陸海軍ノ屯營艦船ニ在ル下士卒傭夫馬丁ヲ出寄留ト看做シテ記入スヘシ

一 囚入及懲治人ノ欄ニハ檢事ヨリ通知シタル犯人ニシテ未ク刑期ヲ終ラサル者

及懲治場ニ在ル者ヲ出寄留ト看做シテ記入スヘシ
 一 失踪ノ欄ニハ本年十二月卅一日調ノ戸籍ニ現ニ失踪ノ登記アル者ノ員數ヲ記入スヘシ
 一 他府縣入寄留ノ欄ニハ他府縣ヨリ本郡市ニ來テ住スル者又他郡市入寄留ノ欄ニハ本縣内ノ他郡市ヨリ來テ住スル者又他町村入寄留ノ欄ニハ一郡内ノ他町村ヨリ來テ住スル者ヲ記入スヘシ

第三 本籍人族別表

明治何年十二月三十一日現在

市町村名

族籍	戸主家		族		棄兒		合計	
	男	女	男	女	男	女	男	女
華族								
士族								
平民								
合計								

一 棄兒ハ本年末日現ニ戸籍ニ在リテ未タ人ノ養子女トナラサル者ノミヲ掲クヘシ

第四 本籍人生年別表

明治何年十二月三十一日現在

市町村名

生年	男	女	計	生年不詳		合計
				男	女	
明治二十三年生						
同二十二年生						
同二十一年生						
同二十年生						
同十九年生						
合計						

一本表ハ本籍人ノ生年ヲ調査スルモノニシテ其調査ノ年ヲ首トシ以上年次ヲ逐ヒ明治慶應元治文久萬延安政嘉永弘化天保文政文化享和寛政天明安永ニ遡リ年號何年生ト列記シ其生レタル年ニ從ヒ記入スヘシ例ハ明治二十三年生レノ下欄ニハ同年一月一月ヨリ十二月三十一日迄ニ出生シタル者ヲ記入スルカ如シ但戸籍編製以前逃亡失踪シ其生年詳ナラサル者アルトキハ生年不詳ノ項ニ記入スヘシ

一 同表死亡届洩者ハ生産届洩者ヲ擧グルル如ク五項ニ區別スルニ及ハス總テ一項ニ合記スヘシ

一 同表本籍不詳者ハ本年中行旅死亡人取扱規則ニ依リ取扱ヒタル數ヲ記入スヘシ但調査ノ際揭示中ニ係ル者ハ之ヲ除キ本籍不詳ト決シタル年ノ數ニ記入スヘシ

一 同表死産ハ妊娠後四ヶ月以上ニシテ死胎分娩シタル者ヲ云フ其數ハ素ヨリ登記目録ニ記載セサルモノナルヲ以テ人民各自ノ届書ニ據リ死産ノ月日ニ拘ハラヌ本年一月一日ヨリ十二月三十一日マテニ届出タル數ヲ記入スヘシ但死亡數ハ計算入スヘカラズ

第六 就除籍送込及失踪表 明治何年 市町村名

類別	男	女	合計
無籍者就籍			
外國ヨリ入籍者			
失踪者除籍			
重籍者除籍			
外國ニ送籍者			
他府縣ニ送籍			
本縣内送籍			

他府縣ヨリ入籍
本縣内入籍
失踪

一 無籍者就籍ノ項ニハ明治五年戸籍編製ノ時ヨリ無籍ニシテ本年ニ至リ始テ籍ニ就キタル者ヲ記入スヘシ

一 外國ヨリ入籍者ノ項ニハ婚姻ニ依リ外國人ニ入籍シタル者ヲ記入スヘシ

一 失踪者除籍ノ項ニハ本年中滿八十歳ニ至リ除籍シタル者及八十歳以上ニシテ失踪シ本年中滿三十六箇月ニ至リ除籍シタル者ヲ記入スヘシ

一 重籍者除籍ノ項ニハ二人ニテ兩所ニ本籍ヲ有スルニヨリ一方ヲ削除シタル者ヲ記入スヘシ

一 外國ニ送籍者ノ項ニハ婚姻ニ依リ外國ニ送籍シタル者ヲ記入スヘシ

一 本縣内送籍又ハ入籍ノ項ニハ本縣内ニ於テ本郡ト他郡トチ間ハス總テ他ノ市町村ニ送籍シ又ハ他ノ市町村ヨリ入籍シタル者ヲ記入スヘシ

一 總テ送籍ハ先ツ甲地ヨリ乙地ニ送籍シテ甲地ニ於テ乙地ヨリ入籍シタル旨ノ通知ヲ該年中及翌年一月製表ノ時マテニ受ケテ除籍シタル者ノ數ヲ記入スヘシ但其通知ヲ製表後ニ受ケタルモノハ翌年ノ數ニ合算スヘシ

一 失踪ノ項ニハ本年一月一日ヨリ十二月三十一日迄本籍人ノ失踪ヲ届出タル者ヲ記入スヘシ但復歸又ハ所在分明ノ届出タル者ハ此限ニアラス

一 專業ノ欄ニ耕作又ハ捕魚採藻ノ業ヲ一途ニ營ム者ヲ記入ス
 一 耕作業中兼業ノ欄ニ耕作業ヲ本トスルト否トヲ問ハス總テ該業ト他ノ業ヲ除ク
 一 耕作業中兼業ノ欄ニ耕作業ヲ本トシテ捕魚採藻業ヲ兼テ營ム者ヲ記入ス
 一 捕魚採藻業中兼業ノ欄ニ捕魚採藻業ヲ本トスルト否トヲ問ハス總テ該業ト他ノ業
 一 耕作業中兼業ノ欄ニ耕作業ヲ本トシテ捕魚採藻業ヲ兼テ營ム者ヲ記入ス
 一 捕魚採藻業中兼業ノ欄ニ捕魚採藻業ヲ本トシテ耕作業ヲ兼テ營ム者ヲ記入ス
 ○訓令第一號 明治二十四年 一月八日

郡市役所
町村役場

戸籍上ノ諸願ハ必ス最近ノ親族連署ノ上其續柄ヲ明記シ可爲差出隣保證人ハ親族ノ者ナ
 キトキニ限ルヘシ
 但明治十五年六月本縣達丁第二十八號ハ取消ス

○訓令第六十六號 明治二十四年 四月十八日
 郡市役所
町村役場

亡兄遺妻結婚ニ關シテハ十八年五月本縣達内第百十八號ノ次第モ有之處近時出願者ノ數
 ナ増加シタルハ倫理上最モ嫌避スヘキコトニシテ自然亡兄長男繼承權ノ消長ニ關スル不
 勘ニ付自今出願者アルトキハ市町村長ハ其事實ヲ審査シ左記ノ事項ヲ取調ヘ意見書ヲ添
 付差出スヘシ

一 遺子廢嫡ノ事由
 一 財産ノ有無
 ○訓令第八十二號 明治二十四年 六月十三日

郡市役所
町村役場

明治十九年内務省令第十九號ニ該當スル者ニシテ其届出期限ニ違背シ處分濟ノモノハ登
 記目錄ニ事由ヲ摘載スヘキハ勿論ニ候得共戸籍簿事項欄内ヘハ別ニ記載スルニ及ハサル
 儀ト心得ヘシ

第八編 兵 事

第一章

徵 兵 附武官結婚

○丙第三十九號 明治十九年 二月二十三日

郡 役 所
戸 長 役 場

陸軍省甲第貳號ヲ以テ左記之通り達相成候條爲心得此旨相達候事
陸軍省甲第貳號 明治十九年 二月十六日

府 縣 沖繩縣ヲ除ク

近衛下士滿期又ハ家事故障ニ依リ豫備役及ヒ後備軍驅員ニ入籍ノ者ハ自今近衛驅員ニ相
定候就テハ從前近衛下士ニシテ既ニ本籍地方所管鎮臺ノ豫備役及ヒ後備軍驅員ニ編入シ
今猶在役ノ者ハ此際更ニ近衛豫備役及ヒ後備軍驅員ニ編入替爲致在郷中ハ本籍地方所管
鎮臺ノ管理ニ屬シ候條爲心得此旨相達候事

○縣令丙第四十三號 明治十九年 十二月廿七日

郡 役 所

徵兵署並ニ檢査所諸費支給概則左ノ通相定候條右ニ依リ取扱フヘシ

徵兵署並ニ檢査所諸費支給概則

第一條 檢丁及呼出ニ係ル檢丁ノ父兄並ニ抽籤總代人檢査所又ハ抽籤場ヘノ旅費ハ明治
十八年七月大藏省第四十二號達徵兵旅費定則ニ據リ支給スヘシ

第二條 徵兵署及檢査所ニ於テ使用スル小使ハ各二人以下トス右雇料ハ一日金拾五錢ヨ
リ多カラサル金額ヲ適宜支給スヘシ

但徵兵署及檢査所備附ノ物品運搬ノ爲メ人夫ヲ要スルトキハ二名以内ヲ雇入本文同
様支給スルコトヲ得

第三條 徵兵署及檢査所ニ宛ンカ爲メ社寺等ヲ借受クルトキハ其廣狹ニ應シ一日金壹圓
ヨリ多カラサル席料ヲ支給スヘシ

第四條 徵兵署及檢査所備附ノ物品ハ該署所閉鎖後可成其最寄官設ノ倉庫ヘ收藏スヘシ
但官設倉庫アレサル地方ハ一ケ年金貳圓ヨリ多カラサル藏敷料ヲ以テ民庫ヲ借入收
藏スヘシ

第五條 前條ノ物品ハ新調修繕トモ其金額三圓以内ノモノハ直ニ處辯シ其以外ヲ要スル
モノハ事由ヲ具シ伺出ヘシ

但備品僅少ニシテ他ヨリ借受ケ辨用スルトキハ相當ノ借料ヲ給スヘシ

第六條 徵兵署及檢査所用薪炭ハ可成省略ヲ旨トシ其實費ニ就キ支出スヘシ

第七條 前條々ノ外徵兵事務官ヨリ特ニ要求ノモノアルトキハ其旨ヲ詳記セシ書面ヲ得
テ之ヲ支出スヘシ

但本條ノ場合ニ於テハ第五條ノ限リニアラス

第八條 支出スヘキ金額ハ正當請取人ヲシテ種類毎ニ請求書ヲ差出サシメ徵兵署及檢査
所閉鎖後直ニ會計課ヘ送致スヘシ

但第一條ニ係ル旅費ハ徵兵署及檢査所開設前概算ヲ以テ交付スヘキニ付檢丁代理ノ資格ヲ以テ豫メ郡長ヨリ請求スヘシ

第九條 前條交付ノ金額渡濟ノ上ハ十日以内ニ正當證書ニ仕譯書ヲ添會計課ヘ送致スヘシ

○訓令乙第四十四號 明治二十年八月廿三日

郡役所 戶長役場

陸軍歸休兵及豫備役後備軍驅員兵員召集ノ途上疾病若クハ川支等ノ爲メ旅費欠乏シ召集地又ハ近衛兵集合地ニ到リ難キ旨申出ツルモノアルトキハ該地戶長ニ於テ事實ヲ調査シ已ムヲ得サルモノト認ムルトキハ一時旅費ヲ貸與シ其旨召集地又ハ近衛兵集合地出張ノ駐在官或ハ後備軍司令部へ通牒スヘシ

但陸軍召集事務取扱細則第十二條ノ證明書ヲ與フル者ニ限ルヘシ
○達兵第二四七號 明治二十年十一月卅日

郡役所 戶長役場

歸休兵及豫備後備兵服役中ノ者ハ各自門戶ニ左ノ雛形ニ據リ標札ヲ掲ケシムヘシ

縦凡七寸

何年豫備(後備)役
板
兵種
第何番
姓
名

分五寸二凡横

縦凡七寸

何年徵兵歸休(褒賞歸休)
板
兵種
第何番
姓
名

分五寸二凡横

○訓令乙第二十七號 明治二十一年 八月二十三日

郡役所 戸長役場

陸軍省訓令甲第七號ヲ以テ左ノ通訓令相成候條現役免除ヲ願フ者有之節ハ右ニ據リ其手續ヲナサシムヘシ

陸軍省訓令甲第七號

北海道廳 府縣

明治十七年當省達甲第十七號達陸軍下士服役規則第十四條ニ據リ現役免除ヲ願フ者ハ本年當省訓令甲第三號ノ手續ヲナシ本人ヨリ所管長官ニ出願セシムヘシ

○訓令甲第三號 明治二十一年 一月十三日

郡役所

陸軍召集旅費概算表ノ儀ニ付左ノ通陸軍大臣ヨリ訓令相成候條右ニ據リ取扱フヘシ

陸軍省訓令甲第十三號 明治二十年 十一月二十八日

北海道廳 府縣

陸軍召集條例第六十五條ニ據リ郡區役所ヨリ金庫國庫金出納本支所へ送付ノ召集旅費概算表欄外ニ五月十日調ハ第一次十一月十日調ハ第二次ノ三字朱書セシムヘシ

但本年十一月十日調ニシテ既ニ送付ノ分ハ追報セシムヘシ

○達兵第九號 明治二十一年 三月三日

豫備後備役點呼ノ節兵員名簿及召集令狀携帶點呼所へ參集ノ儀其筋ヨリ照會有之候ニ付點呼ノ際右諸名簿及召集令狀携帶臨場スヘシ
○達兵第十三號 明治二十二年 三月八日 戸長役場

徵兵事務條例施行細則附錄第一様式ノ壯丁名簿寸法一定ノ儀其筋ヨリ照會有之候條別紙雛形ニ據リ調製ス可シ

第一様式(壯丁名簿)

縦凡七寸 横凡五寸

用紙美濃紙半葉

明 治 年 壯		兵種 番號		住所		身分 職業 氏名		誕生		妻 子	
終 決		假		府(縣)郡(市)町(村)							

丁名簿		格		體		考		備	
要	摘	構造	各部	尺度	胸廓	等位			

○訓令乙第九號 明治二十二年三月十二日

郡役所 戶長役場

本年法律第一號ヲ以テ徵兵令改正ニ付テハ舊徵兵令ニ交渉シ件左ノ通陸軍大臣ヨリ訓令相成候ニ付右ニ據リ取扱フヘシ
陸軍省訓令甲第三號 明治二十二年三月八日

師團司令部 北海道廳 府縣 沖繩縣ヲ除ク

第一項 左ニ掲クル者ハ戶長ニ於テ徵兵事務條例施行細則第一條ニ依リ壯丁名簿ヲ作り島司又ハ郡區長ニ差出サシムヘシ

一 新令第四十條第四十一條ニ當リ徵集ニ應スヘキ者

二 舊令第十八條第五項第六項ニ當リ徵集猶豫中ノ者

三 舊令第十七條ニ當ル者ニシテ其資格ヲ失ヒ第十八條(第五項第六項ヲ除ク)第十九條第二十一條ニ當ル者ニシテ其事故止ミ本年徵集ニ應スヘキ者

四 新令施行前逃亡失踪其他ノ事故ニテ翌年回シト爲リタル者

第二項 前項ノ壯丁名簿ハ島司郡區長ヨリ大隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ニ提出セシム可シ

第三項 新兵第三十六條第三十七條第三十八條第三十九條及第四十一條ニ當リ徵集延期又ハ徵集猶豫中ノ者ハ別ニ壯丁名簿ヲ作ルヲ要セス

從前ノ徵集猶豫名簿ヲ島廳又ハ郡區役所ニ備置キ異動ヲ生スル者アルトキ訂正セシム可シ

○訓令甲第十七號 明治二十二年四月二十九日

郡役所

徵兵事務條例第十六條ニ據リ郡書記ノ内一名大隊區徵兵署事務員ヲ指命シ其人名届出ツ

○訓令第五十四號 明治二十二年十一月四日

郡市役所

徵兵令第三十六條第三十七條第三十八條第三十九條及第四十一條ニ當リ徵集延期若クハ徵集猶豫中轉籍スルモノ、取扱方左ノ通陸軍大臣ヨリ訓令相成候條右ニ據リ取扱フヘシ
陸軍省訓令甲第六號 明治二十二年十月三十一日

北海道廳 府縣 沖繩縣ヲ除ク

徵兵令第三十六條第三十七條第三十八條第三十九條及第四十一條ニ當リ徵集延期若クハ徵集猶豫中他ノ徵募區ニ轉籍スルモノアルトキハ島司郡市長ヨリ其名簿ヲ添ヘ轉籍地ノ島司郡市長ニ通知セシム可シ
但失踪逃亡其他ノ事故ニ依リ翌年回ト爲リタルモノニテ他ノ徵募區ニ轉籍スル者ノ取扱亦本文ニ同シ
○訓令第五十八號 明治二十二年十一月二十七日

郡市役所

附籍者ニシテ徵兵適齡ノトキ徵兵令第二十五條ノ屆書差出方並徵募ノ義左ノ通訓令相成候條右ニ據リ取計フヘシ
明治二十二年十一月二十二日
陸軍省訓令甲第七號

北海道廳 府縣 沖繩縣ヲ除ク

附籍者ニシテ徵兵適齡ノトキ戸主ト家族ヲ問ハズ戸主ヨリ家族ノミ他ヘ附籍ノ場合ニ在

テハ本籍戸主ヨリ徵兵令第二十五條ノ屆書ヲ差出サシメ本籍ノ徵募區ニ於テ徵集ニ應セシムヘシ
○訓令第一號 明治二十三年一月七日

郡市役所 町村役場

徵兵事務手續別冊ノ通定

徵兵事務手續

第一章 徵兵願届

第一條 令第二十五條ニヨリ一月ヨリ十二月迄ニ滿二十歳ト爲ルモノ一月一日ヨリ同月三十一日迄ニ第一書式ノ適齡届書ヲ本籍ノ市町村長ニ差出サシムヘシ
第二條 令第二十五條ニ當ルモノハ條例第六十二條ニヨリ第二書式其一其二ニ做ヒ同徵募區内其年ノ徵收ニ應スヘキ壯丁ノ戸主二名ノ保證書ヲ添ヘ徵集延期願書ヲ三月一日迄ニ大隊區徵兵官ニ差出サシムヘシ
前項ノ事故家族ノ疾病ニ係ルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添付セシムヘシ
第三條 令第二十一條ニ當ルモノハ條例第六十二條ニ依リ第一項ハ學校長ノ證明書第二項ハ公使又ハ領事ノ證明書ヲ添ヘ第三書式ノ徵集猶豫願書ヲ三月一日迄ニ大隊區徵兵官ニ差出サシムヘシ
第四條 令第二十六條及條例第七十條ニ當リ他ノ徵募區ニ於テ徵集ニ應セント欲スル者

ハ第四書式ノ寄留地應徵願書又ハ寄留地最寄徵募區應徵願書ヲ一月三十一日迄ニ本籍地郡市長ニ差出サシムヘシ

第五條 令第二十條ニ當リ徵集延期ノ者引續其事故三ケ年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ四年目ニ至リ第二條ノ例ニ倣ヒ國民兵編入願書ヲ旅管徵兵官ニ宛テ差出サシムヘシ

第六條 令第二十一條第二項ニ當ル者公使又ハ領事ノ證明書出願期日迄到達セサル場合ニ在テハ知事ノ證明書ヲ以テ一時代用スルコトヲ得ルニ依リ其事由ヲ記シ第五書式ノ證明書請求願書ヲ縣廳ニ差出サシムヘシ

但本證明書到達差出シタルトキハ郡市長之ヲ願書ニ添綴シ置クヘシ

第七條 條例第六十四條ニ依リ疾病傷痍或ハ犯罪等ニテ身体ノ檢査ヲ受ケ難キ者及一年志願兵出願中ノ者ハ檢査當日迄ニ第六書式ノ屆書ヲ郡市長ニ差出サシムヘシ

但疾病傷痍ノ者ハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘサスヘシ

第八條 徵兵適齡者及ヒ前年假決ノ者ニシテ失踪逃亡ノ者ハ檢査當日迄ニ戸主又ハ親族ヨリ第七書式ノ屆書ヲ郡市長ニ差出サシムヘシ

第九條 令第四十六條第一項第二項ニ當ル者ハ三日以内ニ其事由ヲ記載シ第八書式ノ屆書ヲ本籍ノ市町村長ニ差出サシムヘシ

第二章 町村長事務
第十條 條例第二十三條並細則第一條ニ依リ令第二十五條ノ屆書ヲ戶籍簿ニ照較シ壯丁名簿ヲ作り三月一日迄ニ郡長ニ差出スヘシ

第十一條 令第四十條第四十一條ニ當リ徵集ニ應スヘキ者アルトキハ前條ノ例ニ依リ壯丁名簿ヲ作り郡長ニ差出スヘシ

第十二條 令第二十五條ノ屆出期限後條例第七十一條ニ當ル者アルトキハ細則第三十二條ニヨリ戶籍ニ基キ壯丁名簿ヲ作り郡長ニ差出スヘシ

第十三條 第十一條乃至第十三條壯丁名簿ハ別ニ一本ヲ作り抽籤後ニ至リ現役分ヲ豫備徵員上徵集延期徵集猶豫國民兵編入免役ニ區別編綴シテ役場ニ備置キ異動アル毎ニ加除スヘシ

第十四條 令第七條及第二十五條但書ニ當ル者ハ細則第二條ニ依リ第九書式ノ人名書ヲ作り壯丁名簿ニ添付スヘシ

第十五條 令第二十八條ニ當ル者處分濟有罪無罪トモ檢査ヲ受クヘキ者アルトキハ其宣告書寫ヲ郡長ニ差出スヘシ

但宣告書寫得難キトキハ通知書寫差出スヘシ

第十六條 令第二十條ニ當ル者ノ徵集延期願書ハ其事實ヲ調査シ戶籍明細書及第十書式ノ調査書ヲ添付シ郡長ニ差出スヘシ

第十七條 細則第五條ニ依リ町村吏員壯丁ヲ取纏メ徵兵署又ハ檢査所ニ出頭ストキハ受檢人名簿ヲ作り事故不參ノモノハ其事由ヲ頭書ニ記載シ差出スヘシ

第十八條 細則第八條ニ依リ現役志願ノ者アルトキハ檢査前ニ第十一書式其一其二ニ倣ヒ家族ノ證認書ヲ添ヒ願書ヲ差出サセ第十二書式ノ身元調ヲ添付シ郡長ニ差出スヘシ

第十九條 細則第二十八條ニ關スル壯丁名簿ニ異動ヲ生シタルトキハ名簿進達後檢査前

ハ郡長ニ檢査後抽籤前ニ係ルモノハ郡長ヲ經テ旅管徵兵官縣廳書記(以下旅管徵兵官トアルモノ皆同シ)ニ

報告スヘシ其入籍者檢査前ニ係ルモノハ戶籍ニ基キ壯丁名簿ヲ作り添付スヘシ

第二十條 令第十八條第十九條第二十條及第二十一條ニ當リ徵集延期若クハ徵集猶豫中

名簿ニ關スル異動ヲ生スル者アルトキハ細則第三十條ニ依リ郡長ニ報告スヘシ

第二十一條 令第三十六條第三十七條第三十八條第三十九條及第四十一條ニ當リ徵集延

期又ハ徵集猶豫中異動ヲ生スル者アルトキハ郡長ニ報告スヘシ

第二十二條 前條ノ徵集延期徵集猶豫中ノ者他ノ徵募區ニ轉籍ニ係ルモノハ戶籍ニ基キ

壯丁名簿ヲ作り報告書ニ添付スヘシ

第二十三條 失踪逃亡其他ノ事故ニ依リ翌年回シト爲リタル者他ノ徵募區ニ轉籍スルト

キハ郡長ニ報告スヘシ

第三章 郡市長事務

第二十四條 郡長ハ町村長ヨリ差出シタル壯丁名簿ヲ條例第二十三條ニ依リ點檢ノ後之

ヲ一徵募區ニ取纏メ前年假決ノ諸名簿ト共ニ大隊區徵兵署ニ提出スヘシ

第二十五條 市長ハ條例第二十三條並細則第一條ニ依リ令第二十五條ノ屆書ヲ戶籍簿ニ

照較シ壯丁名簿ヲ作り前年假決ノ諸名簿ト共ニ之ヲ大隊區徵兵署ニ提出スヘシ

第二十六條 市長ハ令第四十條第四十一條ニ當リ徵集ニ應スヘキ者アルトキハ前條ノ例

ニ依リ壯丁名簿ヲ作り大隊區徵兵署ニ提出スヘシ

第二十七條 市長ハ令第二十五條ノ屆出期限後條例第七十一條ニ當ル者アルトキハ細則

第二十二條ニ依リ戶籍簿ニ基キ壯丁名簿ヲ作り大隊區徵兵署ニ提出スヘシ

第二十八條 市長ハ令第七條及第二十五條但書ニ當ル者ハ細則第二條ニ依リ第十書式ノ

人名書ヲ作り壯丁名簿ニ添付スヘシ

第二十九條 市長ハ令第二十八條ニ當ル者處分濟有罪無罪トモ檢査ヲ受クヘキモノアルトキハ

其宣告寫ヲ大隊區徵兵署ニ提出スヘシ若シ宣告書寫シ得難キトキハ通知書寫ヲ提出ス

ヘシ

郡長ハ町村長ヨリ差出シタル宣告書寫及通知書寫點檢ノ後大隊區徵兵署ニ提出スヘシ

第三十條 市長ハ令第二十條ニ當ル者ノ徵集延期願書ハ事實ヲ調査シ戶籍明細書及第十

二書式ノ調査書ヲ添付スヘシ

第三十一條 令第二十條ニ當ル徵集延期願ハ條例第二十八條ニ依リ事實審覈ノ任ニ當テ

以テ主任郡市書記ヲシテ實地ニ就キ調査ヲ爲サシメ其狀況書ヲ作り大隊區徵兵署ニ提

出スヘシ

第三十二條 細則第三條ニ依リ壯丁名簿及前年假決ノ諸名簿ヲ調査シ第十三書式ノ徵兵

人員報告書ヲ作り三月十日迄ニ大隊區司令官ニ發送スヘシ

但發送後人員増減ヲ生シタルトキハ徵兵署開設ノ際報告スヘシ

第三十三條 大隊區司令官ヨリ徵兵署及檢査所巡回日割報知アリタルトキハ條例第二十

五條ニ依リ檢査ノ日時徵兵署及檢査所ノ場所ヲ其管内ニ告示シ仍ホ細則第五條ニ依リ

出頭ノ日割ヲ定メ壯丁ニ違スヘシ

第二十四條 前條檢査日割定メタル後第十四書式ノ日割表ヲ作り大隊區徵兵署ニ提出スヘシ

第二十五條 市長ハ細則第五條ニ依リ市吏員ヲシテ壯丁ヲ引纏メ徵兵署ニ出頭セシムルトキハ受檢人名簿ヲ作り事故不參ノモノハ其事由ヲ頭書ニ記載シ差出サシムヘシ

第二十六條 細則第六條ニ依リ身體檢査ヲ行フトキハ呼出シニ用ユル壯丁並前年假決連名簿ヲ作り之ニ兵種及次年回シ及不合格其他事故不參者朱書シ郡市役所ニ備置シヘシ

第二十七條 市長ハ細則第八條ニ依リ現役志願ノモノアルトキハ檢査前ニ第九書式其一其二ニ倣ヒ家族ノ承認書ヲ添ヘ願書差出サセ第十書式ニ依リ豫メ身元ヲ調査シ大隊區徵兵署ニ提出スヘシ

第三十八條 市長ハ町村長ヨリ差出シタル書類ヲ調査シ大隊區徵兵署ニ提出スヘシ

第三十九條 細則第十三條ニ依リ作りタル徵集猶豫名簿中一年志願兵入隊ノ届アリタルトキハ假決ノ區畫ニ年月日入營ト朱書シ置クヘシ

第四十條 條例第六十三條ニ依リ他ノ徵募區ニ於テ徵集ニ應セントナル者ノ願ヲ許可シタルトキハ其壯丁名簿ヲ添ヘ本人寄留地ノ島司郡市長ニ通知シ併セテ檢査ノ結果報告方ヲ照會スヘシ

條例第七十條ニ依リ願ヲ許可シタル者モ亦前項ノ例ニ準スヘシ

第四十條 市長ハ壯丁名簿進達後抽籤前名簿ニ關スル異動ヲ生シタル者若クハ他ノ徵募區ヨリ入籍シタル者アルトキハ細則第二十八條ニ依リ旅管徵兵官ニ報告スヘシ

第四十一條 令第十八條第十九條第二十條及第二十一條ニ當リ徵集延期若クハ徵集猶豫中名簿ニ關スル異動ヲ生スルモノアルトキハ細則第三十條ニ依リ其名簿ニ訂正ヲ加フヘシ

他ノ徵募區ニ轉籍スル者ハ其名簿ヲ添ヘ轉籍地ノ島司郡市長ニ通知スヘシ

第四十二條 他ノ徵募區ヨリ寄留徵集ニ應シタル者ニシテ令第十八條第十九條第二十條第二十一條ニ當リ徵集延期若クハ徵集猶豫トナリ延期猶豫中本籍ニ復歸シ又ハ他ノ徵募區ニ寄留替ヲ爲シ更ニ其地ニ於テ徵集ニ應シ度旨一月三十一日迄願出ル者細則第三十一條ニ依リ許可シタルトキハ其名簿ヲ添ヘ新住地ノ島司郡市長ニ通知スヘシ

但寄留替ノ者ハ本籍ノ島司郡市長ニモ通知スヘシ

第四十三條 令第十九條第二十條第二十一條ニ當リ徵集延期若クハ徵集猶豫ノ者抽籤前其資格ヲ失ヒ或ハ事故止ミタル者アルトキハ旅管徵兵署ニ出頭セシメ檢査ヲ受ケサスヘシ

第四十四條 令第三十六條第三十七條第三十八條第三十九條第四十一條ニ當リ徵集延期若クハ徵集猶豫中ノ者ハ従前ノ徵集猶豫名簿ヲ備置キ異動ヲ生スル者アルトキハ訂正ヲ加フヘシ

第四十五條 前條徵集延期若クハ徵集猶豫中ノ者他ノ徵募區ニ轉籍スルトキハ

壯丁名簿 其名簿ヲ添ヘ轉籍地ノ島司郡市長ニ通知スヘシ

市長ハ戶籍ニ基キ

第四十六條 失踪逃亡其他ノ事故ニ依リ翌年回シト爲リタル者ニテ他ノ徵募區ニ轉籍スル者アルトキハ徵集延期名簿ヲ添ヘ轉籍地ノ島司郡市長ニ通知スヘシ

第四十七條 検査後抽籤前北海道廳及他府縣徵募區ニ轉籍スル者アルトキハ細則第二十九條ニ依リ検査名簿ヲ添ヘ轉籍地ノ島司郡市長ニ通知スヘシ

但名簿旅管徵兵官ニ進達後ニ係ルトキハ返附方ヲ請求スヘシ

第四十八條 北海道廳及他府縣徵募區ニ於テ検査後抽籤前ノ者入籍シタルトキハ検査名簿ヲ添ヘ旅管徵兵官ニ報告スヘシ

但抽籤後ニ係ルトキハ細則第二十九條ニ依リ次年ノ徵集ニ取調フヘシ

第四十九條 細則第二十條ノ籤札ハ豫メ籤箱ニ入ル、ニ及ハス兵種ヲ分テ紙袋ニ入レ封シ置キ抽籤ニ先テ旅管徵兵官ノ面前ニ於テ披封籤箱ニ入抽籤スヘシ

第五十條 條例第三十五條及細則第二十一條ニ依リ作ル抽籤名簿新兵ハ各兵種毎ニ一冊トシ豫備徵員ハ各兵種ノ部ヲ分ツテ合冊トスヘシ

但令第二十八條ニ當ル者及第二十一條ニ當リ抽籤ノ法ニ依ラスシテ徵集スル者現役志願ノ者ハ其要領ヲ姓名ノ頭ニ記載スヘシ

第五十一條 細則第二十二條ノ籤丁名簿ハ美濃紙六ツ切ニシ郡市町村大字ヲ姓名ノ肩書ニ記載スヘシ

第四章

雜事

第五十二條 條例第十五條並細則第十五條ニ依リ郡市徵兵參事員其當否ヲ審議センカ爲

メ時宜ニ依リ事實ノ調査ヲ要シ出張スルトキハ半数ハ必検査所ニ立會セシムヘシ
前項ノ出張ハ徵兵官ニ届出サシムヘシ

第五十三條 細則第十七條ニ依リ壯丁ノ家ニ就キ検査スルトキハ郡市徵兵參事員郡市書記各一名町村長臨場セシムヘシ

第五十四條 大隊區徵兵署開設中ハ郡市吏員若干名ヲシテ事務員ノ庶務ヲ補助モシムヘシ

第五十五條 細則第四條第二項ニ據リ郡市長ハ徵兵検査所設置箇所ヲ取調三月五日迄ニ大隊區司令部ニ發送スヘシ

第五十六條 大隊區徵兵署及検査所ノ標札ハ左ノ如ク記載スヘシ
山形大隊區 地名又 徵兵署(検査所)

第五十七條 検査所へ壯丁出頭ノトキハ検査所ト扣所トヲ區別スヘシ

第五十八條 市町村長ハ左ノ個所ヲ豫メ壯丁ニ示シ置クヘシ

一 検査中ハ最も靜肅ニスヘシ
二 検査前日又ハ當日ニ沐浴ヲ爲シ身体ヲ清潔ナラシメ結髮者ハ之ヲ解キ清潔ニ洗置クヘシ

三 大隊區徵兵官事務委員又ハ事務員ヨリ尋問スルコトアルトキハ明瞭ニ應答スヘシ
四 大隊區徵兵官事務委員又ハ事務員ニ對シ自ラ述ヘント欲スルコトハ之ヲ述ルヲ得

第五十九條 検査済ノ後市町村吏員ヲシテ合格不合格ヲ旨ヲ壯丁ニ示サズヘシ

第六十條 令第二十一條ノ願ヲ許可セサル者アルトキハ呼出シ身體ノ検査ヲ受ケサシム

第六十一條 細則第十七條ニ依リ他ノ徵募區ニ於テ検査ヲ受クル者アルトキハ町村吏員ニ壯丁ヲ引卒セシメ郡市書記(事務員)ヲ出張セシムヘシ

第六十二條 條例第二十九條並細則第十三條ニ依リ作ル徵集延期及徵集猶豫名簿ハ冊尾ニ大隊區徵兵官署名押印スルモノトス

第六十三條 各徵募區徵兵署閉鎖ノ際條例第三十一條ニ依リ諸名簿諸書類ヲ取纏メ及同條但書ノ徵集延期徵集猶豫ニ屬シタル者ノ人員報告表ヲ作り之ニ目錄ヲ添ヘ旅管徵兵官ニ發送スルモノトス

検査名簿編綴ノ區分ハ左ノ如シ
兵種甲第二十八條ニ當ル部 年度順ニ綴ルモノ
同 甲第二十一條ニ當ル部 トス以下皆同シ

同 甲現役志願ノ部

同 甲抽籤ノ部

同 乙第二十八條ニ當ル部

同 乙第二十一條ニ當ル部

同 乙抽籤ノ部 短尺疾病家族自活シ能ハサル者ヲ區別シテ綴ルヘシ

同 短尺ノ部

同 畸形ノ部

第六十四條 條例第四十四條ニ據リ大隊區徵兵官ノ裁決ヲ不服トシ訴願ノ届出ヲ爲シタル者アルトキハ郡市長ハ右ニ關スル書類ヲ旅管徵兵官ニ送付スヘシ

第六十五條 條例第四十五條ノ訴願保證人ハ合格者及ヒ新兵ニ限ラサルモノトス若同徵募區内ニ保證人三名ナキトキハ二名ニテモ妨ケナシト雖モ其理由ヲ記載セシムヘシ

第六十六條 抽籤總代人ハ條例第三十四條並細則第九條ニ據リ各徵募區ニ二名若クハ三名壯丁ニ限ラズ住所姓名ヲ選バシメ其人名ヲ旅管徵兵官ニ報告スルモノトス

第六十七條 大隊區徵兵官ハ旅管徵兵署開設中出頭スルモノトス

第五章 抽籤後取扱

第六十九條 新兵入營前ニ際シ父母ノ疾病危篤ハ醫師ノ診斷書死亡ハ死亡證書寫ヲ添ヘ第十五書式ニ倣ヒ十四日以内ノ入營延期願書ヲ大隊區司令官ニ差出サシムヘシ

前項願書差出シタルトキ町村長ハ郡長ニ報告スヘシ第一項出願ノモノハ指令ヲ得ル迄出發見合サスヘシ

第七十條 新兵入營前令第二十條ニ當ルヘキ事故生シタル者ハ條例第五十三條ニ依リ第

二書式其一其二ニ倣ヒ同徵募區内新兵ノ戸主二名ノ保證書ヲ添ヘ徵集延期願書家族ノ疾病ニ係ルモノハ醫師ノ差出サセ市町村長ニ於テ戸籍明細書及第十二書式ノ調査書ヲ添付シ
ノ診斷書ヲ添ヒ
(町村長ハ郡役所ヲ經)大隊區司令官ニ回送スヘシ

入營期日ニ至ルモ前項願ニ指令アルマテ出發見合サスヘシ
第七十一條 前條願ニ據リ徵集延期證書附與サレタルトキハ町村長ハ新兵證書ヲ引揚ケ
更ニ壯丁名簿ヲ作り郡長ニ差出シ郡長ハ其名簿ヲ徵集延期名簿ニ編綴シ新兵證書ハ大
隊區司令官ニ回送スヘシ

市長ハ前項ノ例ニ據リ壯丁名簿ヲ作り徵集延期名簿ニ編綴シ新兵證書ハ大隊區司令官
ニ回送スヘシ

第七十二條 新兵入營前及豫備徵員心得ハ新兵證書並豫備徵員證書裏面ニ記載アル個條
ニ違背セサル様市町村長ニ於テ示シ置クヘシ

第七十三條 條例第五十四條及第五十八條ニ當ル轉籍者養子入夫又ハ分家等ヲモ含ハスノ届書ニハ市町
村長與書證印ノ上其證書ヲ添ヘ(町村長ハ郡役所ヲ經)監視區長ニ回送スヘシ

前項徵兵令施行セサル地ニ轉籍ノ者ハ抽籤後ト雖モ徵集セサルニ據リ再ヒ證書下附ナ
キ旨本人ニ示シ置クヘシ

第七十四條 新兵入營前及豫備徵員ノ名簿ニ關スル異動(轉入籍ヲ除ク)ヲ生シタル者ア
ルトキハ細則第二十八條ニ依リ市町村長(町村長ハ郡役所ヲ經)ヨリ監視區長ニ通知
スヘシ其異動ハ證書ノ訂正ニ關スルトキハ證書ヲ引揚ケ通知書ニ添付スヘシ

但異動通知ノ項目大凡左ノ如シ

戸主ノ變更 身分ノ變更 氏名ノ變更 妻ノ離縁又ハ死亡子ノ生死

刑罰 宣告書ノ寫 失踪逃亡歸家死亡

第七十五條 新兵入營ノ節召集地迄ハ單行セシメ新兵證書ハ遺失セサル様携帶セシムヘ
シ

第七十六條 條例第六十五條ニ據リ疾病傷痕或ハ犯罪等ニテ期限ニ入營シ難キ旨届出タ
ル者其事故止ミタルトキモ同様届出サセ更ニ大隊區司令部ヨリ入營ノ違アリタル後出
發セシムヘシ

第七十七條 前條期限ニ入營セサル者令第二十七條ニ據リ翌年回シト爲リタルトキハ翌
年身體檢査ヲ受クルニ及ハズ前年ノ新兵證書ヲ携帶シ其年ノ新兵ト同時ニ入營セシム
ヘシ

第七十八條 細則第四十四條ニ據リ更ニ證書ノ渡方ヲ請求スルモノアルトキ新兵證書豫
備徵員證書ハ大隊區司令部ニ國民兵證書免役證書ハ縣廳ニ請求スヘシ

但新兵入營時日切迫ノ場合ニ在テハ本人ヨリ引卒官ニ申出サセ若シ單行者ナルトキ
ハ入營ノ際其隊ニ申出サスヘシ

第七十九條 現役中令第二十條ニ當ル可キ事故生シタル者アルトキハ條例第六十八條ニ
據リ其家族ヨリ現役免除豫備役編入願書ヲ差出サシムヘシ其取扱順序ハ總テ第七十條
徵集延期願ニ同シ

徵集延期願ニ同シ

但出願者ノ肩替ニ某父母兄弟姊妹等ヲ記シ保證人ハ現役兵ノ戶主トシ亦近衛及海軍兵ニ在テハ願書ニ通差出サシムヘシ

第一書式 用紙半紙

某郡(市)町村大字某何番地
族職業(長次男)養子

職業 姓 名

何年何月何日生

此段及御届候也

右戶主(親族)

姓 名 印

年月日

某市(町村)長某殿

第二書式 其一 同上

徵集延期(國民兵編入)(現役免除豫備役編入)願

某郡(市)町村大字某何番地
族職業戶主(某長次男)養子

職業 姓 名

何年何月何日生

(何年何兵第何番)

此段奉願候也

年月日

山形大隊區徵兵官御中

(第四旅管徵兵官御中)

(步兵第四旅團長某殿)

(第二師團長某殿)

前書之通相違無之候也

年月日

某(市)町村長 某 印

第二書式 其二

徵集延期(國民兵編入)(現役免除豫備役編入)願保證

某郡(市)町村大字某何番地

職業 姓 名

(何年何兵第何番)

此段保證候也

某郡(市)町村大字某何番地

壯丁(新兵)(現役)某父(兄)(弟)

年月日

姓 名 印

第三書式 同上

徵集猶豫願

此段奉願候也

年月日

山形大隊區徵兵官御中

前書之通相違無之候也

年月日

第四書式 同上

寄留地 最寄徵募區 應徵願

姓名印

某郡(市)町村大字某何番地

族籍職戶主(某長次男)養子

職業 姓名

何年何月何日生

右 姓名印

某町村長 某 印

某郡(市)町村大字某何番地
族職業戶主(某長次男)養子

此段奉願候也

年月日

某郡(市)長某殿

前書之通相違無之候也

年月日

第五書式 同上

證明書請求願

職業 姓名

何年何月何日生

右又(戶主)

姓名印

某町村長 某 印

某郡(市)町村大字某何番地

族職業戶主(某長次男)養子

職業 姓名

何年何月何日生

右戶主(親族)

姓名印

山形縣知事某殿

付一時御證明書御下附被成下度此段奉願候也

年月日

前書之通相違無之候也

年月日

前書之通相違無之候也

年月日

第六書式 同上

疾病(傷痕)(犯罪)ニテ檢査ヲ受ケ難キ届

某市(町村)長 某 印
某郡(市)町村大字某何番地
族職業戶主(某長次男)養子
職業 姓 名
何年何月何日生

(二年志願兵出願中)

前書之通相違無之候也

年月日

前書之通相違無之候也

年月日

第七書式 同上

失踪(逃亡)届

某郡(市)町村大字某何番地
族職業戶主(某長次男)養子
職業 姓 名
何年何月何日生

右
某町村長 某 印
某郡(市)町村大字某何番地
族職業戶主(某長次男)養子
職業 姓 名
何年何月何日生

前書之通相違無之候也

年月日

某郡(市)長某殿

前書之通相違無之候也

年月日

第八書式 同上

徵兵異動届

何年何々ニテ徵集 猶豫 延期

前書之通相違無之候也

某郡(市)町村大字某何番地
族職業戶主(某長次男)養子
職業 姓 名
何年何月何日生
右戶主(親族)
某町村長 某 印
右 姓 名 印
何年何月何日生

年月日

某市(町村)長某殿

姓 名 印

第九書式 用紙美濃野紙

令第七條ニ當ル者

戶主(某長次男)養子

姓 名

何市(町村)大字

何年何月何日生年月日某裁判所何年何月何日生宣告重懲役何年

以下倣之

令第二十五條但書ニ當ル者

戶主(某長次男)養子

姓 名

何市(町村)大字

何年何月何日生

年月日入團教導團生徒

以下倣之

計何人

年月日

某市(町村)長 某 印

第十書式 同上

徵集延期類調査書

明治三十三年二月十四號訓令第四號

(何年何兵第何番)

某郡(市)町村大字某何番地

職業現狀

姓 名

一、
二、
三、
四、

財產 田畑山林宅地家屋及公債證書等

一、
二、
三、
四、

諸般之收入金

一、
二、
三、
四、

國稅納額

一、
二、
三、
四、

地方稅納額

一、
二、
三、
四、

市町村稅納額

徵兵

五五

官ノ救助ヲ受ケタル金額書類ノ寫ヲ添ユルモノトス

前項ノ外自活シ能ハサル證明ノ材料他ニ書類アレハ其寫ヲ添ユルモノトス

右相違無之候也

年月日

第十一書式 其一 同上

現役志願書

某市(町村)長 某 印

某郡(市)町村大字某何番地

族職業戶主(某長次男)養子

職業 姓 名

何年何月何日生

右

姓 名 印

年月日

第四旅管徵兵官御中

前書之通相違無之候也

某市(町村)長 某 印

某郡(市)町村大字某何番地

職業 姓 名

某父(兄) 人 名 印

姓 名 印

年月日

第十二書式 同上

現役志願者身元調

一 父兄職業ノ現狀

一 資産ノ有無生活ノ如何

一 但無財産ノ者ニ在テ親族助方ノ如何

一 筆算等出來得ルヤ否

一 但學校へ入學セシモノナレハ其修學科等記載ス

一 平素行狀

某郡(市)町村大字某何番地

職業 姓 名

人 名

右相違無之候也

年 月 日

某市(町村)長 某

印

第十三書式 同上

明治何年徵兵人員報告

一 本年適齡者

何百何十人

一 前年假決者ニシテ本年受檢見込ノ者

何十人

内 譯

他徵募區ニ於テ應徵ノ者

何 人

内前年假決者何人

何 人

他大隊區ニ於テ應徵ノ者

何 人

内前年假決者何人

他徵募區ヨリ寄留應徵ノ者

何 人

内前年假決者何人

他大隊區ヨリ寄留應徵ノ者

何 人

内前年假決者何人

受檢査者人員及出頭場所

何百人

某檢査所

百何十人

某檢査所

右報告候也

徵兵署

年 月 日

某郡(市)長 某

印

等十四書式 用紙美濃紙

某郡(市)何年徵兵檢査日割表

備	計	某 檢 査 所			檢 査 所 類 別		町 村 名	壯 丁	異 動	計
		何月何日	何月何日	何月何日	日	割				
某 徵 兵 署	何月何日	何月何日	何月何日	某 村	某町村ノ内 大字	某町村ノ内 大字	七九	一八	九七	
										五三
備	計									

考

市ハ町村名ノ區畫ニ大字ヲ記スヘシ

第十五書式 用紙半紙

入營延期願

何年徵兵第何番

某郡(市)町村大字某何番地
族職業戶主(某長次男)養子

職業 姓名

何年何月何日生

此段奉願候也

年月日

山形大隊區司令官某殿

前書之通相違無之候也

某市(町村)長 某

印

訓令第十一號 明治二十三年
二月十三日

郡市役所

陸海軍現役ニ徵集スル各兵身幹尺度ノ儀ニ付陸軍大臣ヨリ師團司令部ヘ左ノ通訓令相成

候條此旨心得ヘシ
陸軍省達 明治二十三年
二月七日

師團司令部

陸海軍現役兵(志願兵ヲ除ク)ニ徵收スル各兵ノ身幹ハ左ノ區別ニ從ヒ選定セヨムヘシ

陸軍

砲兵工兵

五尺四寸以上

歩兵騎兵輜重兵

五尺二寸以上

輜重輸卒

五尺一寸以上

職工

五尺以上

警備隊ノ歩兵砲兵ハ以上ノ定尺ヨリ各二寸以內減縮スルコトヲ得

海軍

水兵火夫看病夫

五尺三寸以上

木工鍛冶厨夫

五尺二寸以上

訓令第二十七號 明治二十三年
三月二十二日

郡市役所

徵兵令第十一條第三項ニ依リ六週間陸軍現役ニ服スル者ノ身幹尺度及其族籍氏名調査方
ノ儀内務陸軍兩大臣ヨリ左ノ通訓令相成候條左記ノ雛形ニ照準取調毎年四月二十日迄縣
廳ヘ差出スヘシ但本文期日後ニ係ル者ハ其時々取調差出スヘシ

徵兵令第十一條第三項該當人名調

何年何月何日官立何學校卒業現
今何府縣立何學校ニ於テ教職

何府何國何市何郡何町何大字何番地
何縣何市何村何大字何番地
族籍誰何男養子弟(本人戸主ナレハ戸主ト記ス)
氏名

身幹尺度 氏名 年月日生

何年何月何日府縣立何師範學校卒業現
今何府縣立何學校ニ於テ教職

身幹尺度 氏名 年月日生

以下同斷

陸軍省訓令甲第二號 明治二十三年三月十日

徵兵令第十一條第三項ニ依リ六週間陸軍現役ニ服スル者ノ取扱左之通定ム

第一項 官立府縣立師範學校ヲ卒業シ官立公立小學校ノ教職ニ在ル者ノ身幹尺度ヲ道廳府縣ニ於テ調査シ毎年五月一日迄ニ其族籍氏名ト共ニ師團司令部ニ通知シ同日以後ニ係ルモノハ其時々通知スヘシ但官立小學校ノ教職ニ在ルモノハ其所屬長ヨリ四月二十日迄ニ族籍氏名及身幹尺度ヲ學校所在地廳府縣ニ通知シ同日以後ニ係ルモノハ其時々通知ス

第二項 師團司令部ニ於テハ入營スヘキ人員ヲ步兵隊聯ニ配當シ入營前日迄ニ其聯隊所

在地ニ召集シ身體檢査ヲ行ハシムヘシ但シ身幹定尺ニ滿タサルモノハ召集スルヲ要セズ

身體檢査ノ格例ハ一般徵兵ノ例ニ依ル

第三項 身體檢査ニ合格シタルモノト合格セサル者(身幹定尺ニ滿タサル者共)ヲ區分シ

師團長ヨリ本籍ノ旅管徵兵官ニ通知ス可シ

第四項 旅管徵兵官前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ其合格セサル者ニハ國民兵證書ヲ附與

スヘシ

第五項 前諸項ニ掲グルモノ、外ハ師管徵兵官ニ於テ適宜之ヲ定ム可シ

○訓令第二十九號 明治二十三年三月二十七日

郡 役 所

本年二月陸軍省令第五號ニ依リ召集旅費金交付方ノ儀ニ付陸軍大臣ヨリ左ノ通訓令相成候ニ付テハ若シ受領所ヘ一日間ニ往復シ能ハサル者アルトキハ豫メ取調更ニ監視區長ノ出張スヘキ適宜ノ町村役場ヲ選ミ該區長ヘ通知スヘシ
陸軍省訓令第三號 明治二十三年三月十八日

師團司令部

府 縣 沖繩縣ヲ除ク

明治二十三年(二月)陸軍省令第五號ニ依リ召集旅費金受領ノ爲メ監視區長駐劄所郡役所等ヘ出頭スヘキ者ノ内若シ一日間ニ往復シ能サル者アルトキハ最ニ更寄ノ町村役場ヘ監

視區長ヲ出張セシム可シ其一日間ニ往復シ能ハザル者ハ島司又ハ郡長ヲシテ豫メ取調ヘシメ且適宜ノ町村役場ヲ監視區長ヘ通知セシムヘシ
 ○告示第三十一號 明治二十三年三月二十九日
 今般監視區長増員ニ付駐劄所並ニ包括郡市區域左ノ通改正アリタリ

監視區長駐劄所

監視區域

酒田

飽海郡 東田川郡 西田川郡

新庄

最上郡 東村山郡 西村山郡 北村山郡

赤湯

南村山郡 山形市 東置賜郡 西置賜郡 南置賜郡 米澤市

○訓令第三十七號

明治二十三年五月一日

郡市役所

明治十七年以前ノ徵兵ニシテ失踪逃亡ノ者取扱方ノ儀ニ付内務陸軍兩大臣ヨリ左ノ通訓令相成候條右ニ據リ取扱フヘシ
 陸軍省訓令甲第四號 明治二十三年三月二十日

師團司令部

道廳府縣

明治十七年以前ノ徵兵ニシテ失踪逃亡ノ者ハ歸投若クハ所在發見スルニ從ヒ徵集ノ手續

ヲ爲シ其失踪不明ノ者ハ毎年調査スルニ及ハス
 ○訓令第五十號 明治二十三年七月二十二日

郡市役所

陸軍豫備後備將校同相當官及下士兵卒並歸休兵ニシテ他ニ寄留中召集ニ關スル取扱ノ儀ニ付陸軍大臣ヨリ左ノ通訓令相成候條此旨心得ヘシ
 陸軍省訓令甲第十三號 明治二十三年七月十八日

近衛 師團司令部

道廳 府縣

陸軍豫備後備將校同相當官及下士兵卒並歸休兵ニシテ他ニ寄留中召集ニ關ル取扱ヲ左ノ通り定メ明治二十年二月營省訓令甲第一號ヲ廢ス

第一項 陸軍豫備後備將校同相當官及下士兵卒並歸休兵ニシテ寄留地ヨリ直ニ召集ニ應シ又ハ近衛集合地ニ到ランコトヲ願出ル者アルトキハ將校同相當官ハ師團下士以下ハ大隊區司令官ニ於テ之ヲ許可スルコトヲ得

第二項 前項ノ許可ヲ受ケタル者ハ旅費受領人ヲ定メ(豫メ委任狀ヲ渡シ置キ)其住所氏名ヲ師團長又ハ大隊區司令官ニ届出テシムヘシ

第三項 旅費ハ其受領人ヨリ令狀ハ召集令通報人ヨリ便宜ノ手續ヲ以テ本人ヘ送致セシムヘシ

第四項 旅費額ハ本籍地ヨリ起算シ召集地又ハ近衛兵集合地迄ノ計算トス

第五項 近衛兵集合地ヲ經ス直ニ召集地ニ至ル者ハ集合地ヨリ召集地迄ノ旅費ハ近衛ヨ

リ追給スヘシ

○達三第八號 明治二十四年 一月二十九日

郡市役所

徵兵令第十條ニ依リ現役志願者其出願期限單ニ十二月一日前トアルヲ以テ入營期日ニ切
迫シ出願スルモ素ヨリ志願者ノ隨意ナレトモ師團ニ於テハ其年徵兵所要人員ヲ定メ之ヲ
陸軍大臣ニ申報シ開裁ヲ經テ過員ニ歸休ヲ命セラル、儀ニ付其以前ニ於テ出願セサルト
キハ當該隊長ニ於テ之ヲ許可セントスルモ開裁ヲ經テ人員ヲ動カサ、レハ定員ニ超過
ヲ生スル儀ニ付不得己入營ヲ許可セサルニ至リ其志願人ノ不幸ニ付爾今該志願者ハ可成
九月上旬マテニ出願シ又入營ヲ許可セラレタルモノ無止事故ヲ生シ入營シ難キモノ有之
節ハ入營期日前迄届出候事ニ致度旨其筋ヨリ協議有之候條右ノ主旨相心得出願候様無洩
達方取計フヘシ

○訓令第二十七號 明治二十四年 三月十一日

郡市役所

毎年現役兵ニ交徵集又ハ豫備徵員ヨリ現役兵ニ操上タル者ハ郡市長ヨリ各自
ノ戶籍寫ヲ大隊區司令官ニ送付スヘシ

○訓令第三十六號 明治二十四年 三月十一日

郡市役所

明治二十二年 陸軍省令第一號徵兵事務條例施行細則附錄第一號式壯丁名簿中ノ妻子ハ
當分記入スルニ及ハス

○訓令第六十七號 明治二十四年 四月二十一日

郡市役所

明治三十三年(二月)訓令第四號陸軍召集事務取扱細則別冊ヲ通改正諸附錄ニ
(別冊) 陸軍召集事務取扱細則

陸軍召集事務取扱細則

第一條 本則ハ陸軍召集條例第二十四條ニ據リ郡市町村長ニ於テ執行スヘキ事項ヲ規定
スルモノトス

第二條 郡長ハ町村役場ノ敷ニ應シ第一號書式(甲乙)ニ據リ達書ヲ調製シ狀袋ニ役場名
ヲ記シ直ニ發シ得ル様準備シ置クヘシ

第三條 郡長ハ豫備後備將校同相當官及下士ノ人員ニ應シ第三號書式ニ據リ召集令狀ノ
受領證書ヲ調製シ一人毎ニ狀袋ニ入レ直ニ發シ得ル様準備シ置クヘシ

第四條 郡長ハ條例第二十九條ニ據リ同第二條第一項乃至第四項ノ召集達書ヲ受ケタルト
キハ第二條ノ達書(甲)ニ年月日時ヲ記入シ條例第三十條ニ據リ豫定ノ脚夫ヲ以テ速ニ

町村長ニ送シ又同第二十七條ニ據リ監視區長ヨリ豫備後備將校同相當官及下士ノ召集令狀ヲ受領シタルトキハ第三條ノ受領證書ニ年月日時ヲ記入シテ該令狀ニ添付シ豫定ノ脚夫ヲ以テ速ニ各自ニ配達スヘシ

明治二十三年陸軍省令第十一號ニ據リ大隊區司令部官吏ヨリ旅費支給期日ノ通知ヲ得タルトキハ第二條ノ送書(乙)ニ年月日時ヲ記入シ速ニ町村長ニ送スヘシ

第五條 市町村長ハ歸休兵並ニ豫備後備將校同相當官及下士兵員ノ數ニ應シ第二號書式ニ據リ旅費支給期日送書ヲ調製シ一人毎ニ狀袋ニ入レ直ニ發シ得ル様準備シ置クヘシ

第六條 市長ハ前條ノ人員ニ應シ第三號書式ニ據リ召集令狀ノ受領證書ヲ調製シ(兵員ノ分ハ召集令狀トモ)一人毎ニ狀袋ニ入レ直ニ發シ得ル様準備シ置クヘシ

第七條 市長ハ條例第二十九條ニ據リ同第二條第一項乃至第四項ノ召集送書ヲ受ケタルトキハ同第五十二條ニ據リ藏置ノ令狀表面ニ同第三十一條ニ據リ年月日(近衛令狀ノ裏面ニハ參集期日ヲモ記ス)及第二十七條ニ據リ監視區長ヨリ豫備後備將校同相當官及下士ノ召集令狀ヲ受領シタルトキハ第六條ノ受領證書ニ年月日時ヲ記入シテ該令狀ニ添付シ豫定ノ脚夫ヲ以テ速ニ各自ニ配達スヘシ

明治二十三年陸軍省令第十一號ニ據リ大隊區司令部官吏ヨリ旅費支給期日ノ通知ヲ得タルトキハ第五條ノ送書ニ年月日時ヲ記入シ速ニ各自ニ送スヘシ

第八條 町村長ハ歸休兵並ニ豫備後備兵員ノ數ニ應シ第三號書式ニ據リ召集令狀ノ受領證書ヲ調製シ召集令狀ト共ニ一人毎ニ狀袋ニ入レ直ニ發シ得ル様準備シ置クヘシ

第九條 町村長ハ條例第三十條ニ據リ召集ノ送書ヲ受ケタルトキハ同第五十二條ニ據リ藏置ノ令狀表面ニ同第三十一條ニ據リ月日(近衛令狀ノ裏面ニハ參集期日ヲモ記ス)及第八條ノ受領證書ニ年月日時ヲ記入シ豫定ノ脚夫ヲ以テ速ニ各自ニ配達シ又第四條第二項ノ旅費支給期日ノ送書ヲ受ケタルトキハ第五條ノ送書ニ年月日時ヲ記入シ速ニ各自ニ送スヘシ

第十條 召集令狀ノ受領證書ハ本人受領ノトキ着時ヲ記入捺印セシメ後證トナスヘシ

第十一條 條例第四十九條ノ警報ハ第四號書式ニ據リ郡市役所及町村役場ニ於テ豫メ調製シ置キ同第二條ノ送書ニ從ヒ年月日時ヲ記入シ直ニ揭示場ニ公示スヘシ

但揭示場外人民輻輳ノ地ニハ更ニ公衆ノ注目スヘキ場所ヲ豫メ撰置キ揭示スヘシ

第十二條 郡市役所及町村役場ニ於テハ召集事務執行ノ爲メ樞要ノ事項ヲ摘載シ事務所又ハ其他便宜ノ所ニ掲ケ置クヘシ

第十三條 歸休兵並ニ豫備後備將校同相當官及下士兵員召集ノ命アルニ際シ他ニ寄留又ハ旅行中ノモノアルトキハ之ヲ通報スヘキモノニ召集令狀ヲ附與シ受領證書ニ通報人ノ記名捺印セシムヘシ

明治二十三年陸軍省訓令第十三號ニ據リ寄留地ヨリ直ニ召集ニ應センコトヲ願出許可ヲ得タルモノ亦同シ

第十四條 條例第二十八條第二項ノ軍用旅舎ハ警察官ノ主管ト雖モ枝道ニ在テハ町村役場ニ於テ便宜ノ場所ニ旅舎ヲ設ケ宿泊料一日一人ニ付金拾五錢以内ヲ以豫メ舍主ト規

約ヲ爲シ召集ノ際見易キ様國旗又ハ高張若シハ提燈等ニ條例第二樣式以徽章ヲ附シ掲ケシムヘシ

第十五條 歸休兵並ニ豫備後備將校同相當官下士兵員召集ニ際シ疾病又ハ川支其他ノ事故ニテ滯留シ證書ヲ請フモノアルトキハ該地ノ市町村長ニ於テ第五號書式甲乙ニ據リ證書ヲ附與スヘシ

前項滯留ノ爲メ旅費ノ欠乏ヲ訴フルトキハ市長村長ニ於テ事實ヲ調査シ日數ニ應シ滯在日當(准士官以上三拾五錢下士以下貳拾貳錢)ヲ一時繰替支給シ第六號書式ニ據リ證書ヲ徴シ置キ該證書ヲ請求書ニ添付(町村長ハ郡役所ヲ經テ)縣廳ヘ差出スヘシ

第十六條 歸休兵並ニ豫備後備兵員條例第四十三條第五十九條第七十五條第八十九條ニ該當シ召集ニ應シ難ク召集令狀ヲ返附シタルモノ遂ニ解散ノ時期ニ至ルモ其事故止マサルトキハ召集令狀ヲ(町村長ハ郡役所ヲ經テ)監視區長ニ返付スヘシ

第十七條 條例第四十五條第六十一條第七十七條第九十一條ニ據リ犯罪又ハ失踪逃亡等ノ事故止ミ發程スルモノアルトキハ市町村長ハ條例第一樣式其一裏面欄外記載ノ例ニ據リ召集令狀裏面欄外ニ事由ヲ記シ捺印スヘシ

但本人發程シタルトキハ所轄警察署又ハ分署或ハ巡查駐在所ヘ通知スヘシ

第十八條 市町村長ハ召集令狀各自ニ配達後應徵者不應徵者ヲ取調三日以内ニ第七號書式ニ據リ召集人員表ヲ調製シ市長ハ縣廳ニ町村長ハ郡役所ニ差出シ郡役所ニ於テハ一郡ノ表ヲ製シ速ニ縣廳ニ差出スヘシ

第十九條 條例第四百十八條ニ據リ郡市役所町村役場ニ備付ノ歸休兵並ニ豫備後備將校同相當官及下士兵員名簿ハ左ノ如ク類別シ各召集地ニ區分シ第八號書式(甲乙)ニ據リ調製シ各自身上異動アル毎ニ訂正シ常ニ明瞭ナラシムヘシ

某地召集ノ部

- 一 豫備將校下士第一充員名簿

某地召集ノ部

- 一 近衛豫備將校下士充員名簿

某地召集ノ部

- 一 後備將校下士召集名簿
- 一 近衛後備將校下士召集名簿

某地召集ノ部

- 一 歸休兵第一充員名簿

某地召集ノ部

- 一 豫備兵員第一充員名簿

某地召集ノ部

- 一 近衛歸休兵充員名簿
- 一 近衛豫備兵員充員名簿

某地召集部

一 後備兵員召集名簿

一 近衛後備兵員召集名簿

第二十條 前條ノ名簿ハ毎年一回簡閱點呼召集前ニ於テ郡役所備付ノ名簿ト町村役場備付ノ名簿ト照合チナスヘシ

第二十一條 條例第五百五十四條但書ニ據リ市町村長ニ於テ召集令狀中朱字ニテ訂正ヲ加フヘキモノハ歸休兵ヨリ豫備ニ移リ又ハ其所轄内ニ於テ各自身上異動ヲ生シタルモノニ限ル

左ノ事項ニ當ル異動ハ召集令狀(届書ヲ要スルモノハ届書ト共ニ又町村長ハ郡役所ヲ經テ)ヲ監視區長ニ送附スヘシ

- 一 所轄外ニ係ル異動ノモノ
- 一 豫備ヨリ後備ニ移ルモノ
- 一 後備ヨリ國民兵籍ニ移ルモノ

第二十二條 郡役所ニ於テ條例第六十四條ニ據リ所用ノ脚夫ハ速度一時間一里半ヲ基準トシ一町村又ハ二三町村受持ノ區畫ヲ爲シ豫メ其人員ヲ定メ置クヘシ

第二十三條 市役所ニ於テ條例第六十四條第六十七條町村役場ニ於テ同第六十七條ニ據リ所用ノ脚夫ハ速度一時間一里半ヲ基準トシ概テ二時間ヲ以テ普ク達シ得ル様豫メ其人員ヲ定メ置クヘシ

第二十四條 郡市役所町村役場ニ於テ召集達ヲ受ケタルヨリ脚夫ヲ發スルマテ事務整理

ノ爲メニ要スル時間ハ概テ二時間以内トス

第一號書式甲 (用紙半紙罫紙)

町(村)役場

第一(第二)充員(後備將校)(後備下士)(後備兵員)(近衛充員)(近衛後備將校)(近衛後備下士)(近衛後備兵員)召集達セラル候條成規ノ通取計フヘシ

明治 年 月 日 午 時 分 郡長 氏 名 印

○近衛兵ノ召集達發令ノ翌日ニ及ヒタルトキハ召集ノ上(某日發令)ト記載スヘシ

第一號書式乙 (用紙半紙罫紙)

町(村)役場

召集旅費支給期日左ノ通其筋ヨリ通知有之候條達方取計フヘシ

明治 年 月 日 午 時 分 郡長 氏 名 印

何所ニ於テ何日午 時 分

第二號書式 (用紙半紙罫紙)

日午 時 分何所ニ於テ召集旅費支給相成候條無遅刻出頭有之ヘシ

明治 年 月 日 午 時 分 市(町)(村)(長) 氏 名 印

豫備(後備)官
歸休兵(豫備)後備 氏名殿

第三號書式

(用紙) 縱凡四寸 橫凡三寸

召集地	受領證書	發時	午前	時分	著時	午後	時分
第一 (第二) (何々)		召集令狀					
何		右正ニ受領候也					
明治		年月日					
兵員		何郡(市)(町)村官		氏		名印	
歸休兵(豫備)		氏		名		印	
(後備)何兵		氏		名		印	
寄留旅行等ノモノハ		右氏		名		印	
通報人父(兄)(親族)		氏		名		印	
所							

○近衛將校下士兵員ハ近衛ノ二字ヲ冠スヘシ
第四號書式 (用紙西ノ内紙豎四枚續キ)

警報(朱書)

第二師團第一充員召集相成候事

明治 年 月 日 時 分 着報

郡(市)役所町(村)役場

第二充員召集ノ時ハ

第二師團第二充員召集相成候事

後備將校同相當官召集ノ時ハ

第二師團後備將校召集相成候事

後備下士召集ノ時ハ

第二師團後備下士召集相成候事

後備兵員召集ノ時ハ

第二師團後備兵員召集相成候事

近衛充員召集ノ時ハ

近衛充員召集相成候事

近衛後備將校同相當官召集ノ時ハ

近衛後備將校召集相成候事

近衛後備下士召集ノ時ハ

近衛後備下士召集相成候事

近衛後備兵員召集ノ時ハ

近衛後備兵員召集相成候事

第五號書式甲 (用紙半紙罫紙)

徵兵相當者東京府下寄留地ニ於テ應徵許可ノ者寄留地郡區長へ通知ノ際ハ寄留地町村番地等詳細ニ記載シ且同居寄留ノ者ニ於テハ必其同居戸主ノ氏名ヲ記載スヘキ旨該府ヨリ照會有之候條自今右様取計フヘシ

○訓令第九十八號 明治二十四年九月二十二日

郡役所
町村役場

陸軍豫備後備下士兵卒ニシテ該服役條例第八條第二項第十條第十一條第十三條第十四條歸休兵ニシテ同服役條例第七條第九條第十條第十二條第十三條ニ當ルモノハ町村長ヨリ郡長ニ報告スヘシ

但郡役所ヲ經由シタルトキハ此限ニアラス

○丁第二十二號 明治十四年五月十八日

町村戸長

陸軍省ヨリ別紙甲第十三號ノ通達相成候條豫備後備兩軍服役ノ者へ可相達此旨相達候事

○達甲第十三號 明治十四年五月三日

府縣

陸軍武官結婚條例別冊之通被相定候條此旨相達候事

陸軍省

陸軍武官結婚條例別冊之通相定候條此旨相達候事

明治十四年四月二十五日

左大臣 熾仁親王

陸軍武官結婚條例

第一條 凡ソ軍人ハ最モ其品位ヲ重ニス故ニ其配偶ヲ擇ミ以テ終身ノ活計ヲ維持セシメ家政ヲ治メテ以テ其職掌ヲ確守セシム若シ其配偶其匹ヲ擇ハス之ヲ輕忽ニセハ一ハ以テ其品位ヲ傷ケ一ハ以テ其營生ニ煩ハサレ遂ニ其職掌ヲ汚シ隨テ全軍ノ精力ヲ殘フニ至ル仍テ左ニ其制限ヲ設ク

第二條 凡ソ軍人ノ結婚セント欲スル者將官並ニ同等官ニ在テハ勅許ヲ仰キ准士官以上ニ在テハ陸軍卿ノ許可ヲ受クヘシ

第三條 下士卒常備服役中ハ結婚スルヲ許サス然レトモ再服役以上ノ下士並ニ豫備後備軍服役中ノ下士卒ニ在テハ所管長官ノ許可ヲ受ケ結婚スルヲ得但憲兵並會計軍醫馬醫軍樂部ノ下士卒(徵兵令ニ依リ徵集シタル看病卒ヲ除ク)及砲兵看護工兵看護ニ在テハ常備服役中ト雖トモ所管長官ノ許可ヲ得テ結婚スルヲ得

第四條 結婚ノ許可ヲ得ントスル者ハ第一號書式ニ照シ出願スヘシ

第五條 將官並ニ同等官ニ在テハ陸軍卿與書シ准士官以上ニ在テハ所管長官下士以下ニ在テハ所屬隊長(課長)豫備及ヒ後備軍下士以下ニ在テハ後備軍使府縣駐在官與書スヘシ

第六條 其娶ルヘキ婦人ハ行狀端正ノ者ニ非レハ結婚スルヲ許サス故ニ其行狀ヲ證スル爲メ第二號書式ニ照シ其婦ノ所在地戸長ノ調印シタル身元證書ヲ添フヘシ

第七條 現役士官並ニ同等官以下ニ在テハ家計保護金トシテ左ノ金額ヲ納メシメ陸軍省ニ之ヲ保存シテ以テ其生計ヲ保護セシム故ニ結婚出願ノ時第三號書式ノ證書ヲ出スヘシ

大尉並同等官 四百六拾圓

中少尉並同等官 六百圓

准士官 八拾圓

下士 八拾圓

第八條 第三條但書ニ載スル諸卒ニ在テ結婚スル時ハ第七條ニ準シ家計保護金ヲ納メシム其金額ハ下士ニ同シ

第九條 第七條ノ金額ハ本人又ハ其娶ルヘキ婦人ノ所有或ハ雙方ノ所有ヲ合シタルモ妨ケナシ

但シ公債證書ヲ以テ納ムルモ妨ケナシト雖トモ大藏省定ムル所ノ價格ヲ以テ之ヲ算シ第七條ノ金額ニ相當セシム

第十條 結婚ヲ整ヘタル時ハ其旨速ニ届出ヘシ

但シ家計保護金ハ本文届出同時ニ差出ヘシ

第十一條 家計保護金ヲ還付スルハ左ノ項目ニ依ルヘシ

第一項 上長官ニ昇進セシ時

第二項 恩給ヲ受ルノ權利ヲ有スル時

第三項 本人死没スルカ又ハ現役ヲ離ルル時

第四項 其妻離別スルカ又ハ死亡シタル時

第五項 天災地變ニ罹リ家産擧テ滅亡シタル時

第十二條 結婚願書式左ノ如シ

第一號書式

結婚願

使府縣國郡區町村族籍職業

何某何女(姉)(妹)

某 年號月日生

某 年號月何年何ヶ月

某 儀

今般熟談ノ上右ニ記載ノ者ト結婚致シ度依テ別紙身元證書(家計保護金證書)相添差出候間御許可被下度此段奉願候也

年 號 月 日

官 姓 名 印

太政大臣(陸軍卿)(所管長官)宛

前書之趣篤ト取調候處不都合無之ニ付御許可相成度候也

陸軍卿(所管長官)(何隊長)(何課長)

官 姓 名 印

第二號書式

身元證書

使府縣國郡區町村族籍職業

何某何女(姉)(妹)

某
年號月日生
年號月何年何ヶ月

右ハ行狀端正ノ者ニ有之候此段致保證候也

使府縣國郡區町村戶長
戶長アラサ
ル地ハ區長

姓 名 印

年 號 月 日

第三號書式

家計保護金證書

一金何百何拾圓也

右ハ今般結婚奉願候ニ付御許可ノ上ハ家計保護金トシテ可差出候也

年 號 月 日

官 姓 名 印

○丙第三十四號 明治十九年
二月十二日

郡 役 所
戶 長 役 場

下士卒結婚ノ義ニ付左ノ通達相成候條爲心得此旨相達候事

海軍省乙第二號 明治十九年
二月五日

府 縣

下士卒ノ結婚ノ儀ハ自今届出ルニ及ハス

○丙第二百六十四號 明治十八年
十二月四日

郡 役 所
戶 長 役 場

海軍武官結婚條例ノ儀ニ付海軍省乙第十四丙第五十九兩號ヲ以テ左ノ通達相成候條爲心得此旨相達候事

海軍省乙第十四號 明治十八年
十一月十三日

府 縣
海 軍 一 般

海軍武官結婚條例左ノ通被定候條此旨相達候事

海軍武官結婚條例

第一條 凡ソ軍人ノ結婚セント欲スル者將官並ニ同等官ニ在テハ勅許ヲ仰キ準士官以上

ニ在テハ海軍卿ノ許可ヲ受ケ下士卒ニ在テハ所管長官ノ許可ヲ受クヘシ

第二條 少尉補機關士補軍醫補主計補ハ年齡二十五歳以上ニ至ラサレハ結婚スルコトヲ

許サス

第三條 下士卒ニシテ左ニ掲クル者ハ結婚スルコトヲ許サス

一年齡二十五歳未滿ノ者 一若水兵若火夫 一徵兵令ニ據リ徵集シタル現役兵
 第四條 娶ルヘキ婦人ハ行狀端正ニシテ年齡十六歳以上ノ者タルヘシ
 第五條 結婚ノ許可ヲ得ント欲スル者ハ第八條第一號書式ノ願書ニ第二號書式ノ身元證
 書ヲ添テ出願スヘシ
 第六條 將官並ニ同等官ノ願書ニハ海軍卿準士官以上ノ願書ニハ所管長官下士卒ノ願書
 ニハ所轄長與書證印スヘシ
 第七條 結婚ヲ整ヘタル時ハ其旨速ニ届出ヘシ
 第八條 結婚願書式並ニ身元證書式ハ左ノ如シ
 第一號書式

結婚願

何府(縣)何國何郡(區)何町村
 何番地華士族平民
 何某何女(姉)(妹)

某 年月日生
 某 年月何年何ヶ月
 官(職) 姓 名 印
 今般熟談ノ上右ニ記載ノ者ト結婚致度候間御許可被下度別紙身元證書相添此段奉願候也

太政大臣(海軍卿)(所管長官)宛
 前書ノ趣篤ト取調候處不都合無之ニ付御許可相成度候也

海軍卿(所管長官)(所轄長)

官 姓 名 印

第二號書式

身元證書

何府(縣)何國何郡(區)何町(村)
 何番地華士族平民
 何某何女(姉)(妹)

某 年月日生
 年月何年何ヶ月

右ハ行狀端正ノ者ニシテ年齡モ前書ノ通相違無之候此段致保證候也

何府(縣)何國何郡(區)何町(村)

戶長

姓 名 印

第二章

徵發

○丙第二百二十三號

明治十八年
 九月十一日

郡 役 所

戶長役場

徵發事務取扱手續別紙ノ通相定候條此旨相違候事

但明治十六年(二月)丙第十八號明治十七年(二月)丙第九號明治十七年(二月)丙第二十九號迄ハ取消ス

徵發事務取扱手續

第一條 徵發事務取扱手續ハ徵發令第八條ニ從ヒ事務條例第十四條ニ依リ縣廳ニ於テ臨時徵發ニ應スヘキ方法及ヒ郡長戶長ニ於テ便宜ノ方法ヲ豫定スヘキノ標準ヲ定ムルモノトス

第二條 徵發令第十二條及ヒ第十三條諸項ノ徵發ヲ課セラレタル時縣令ハ郡長ヘ郡長ハ戶長ヘ戶長ハ各種營業者又ハ他ノ人民ニ賦課スルヲ定メトス但シ時機切迫シタル場合ニ於テハ出張ノ縣官郡吏直ニ戶長若クハ各營業者又ハ他ノ人民ニ賦課シテ供給セシムルコトアルヘシ

第三條 徵發令第十二號第一項ノ徵發ヲ課セラレタル時ハ物件差出場所最近ノ郡ニ賦課スルヲ以テ郡長ハ運搬ノ便否供給方等ヲ酌量シ最寄ノ町村ニ賦課スヘシ戶長ハ之ヲ各種營業者ニ賦課シ指定ノ場所ヘ輸送セシムヘシ

但同條及ヒ第十三條諸項ノ徵發物件又本條ニ準スル時ハ物件差出場所最近ノ郡ニ賦課スルヲ以テ郡長ハ運搬ノ便否供給方等ヲ酌量シ最寄ノ町村ニ賦課スヘシ戶長ハ之ヲ各種營業者ニ賦課シ指定ノ場所ヘ輸送セシムヘシ

第四條 郡長戶長船舶會社ノ店長ニ於テ徵發ヲ課セラレタル時ハ徵發ヲ行ヒタル官憲及ヒ其物件數量差出場所ヲ速ニ縣廳(縣官出張ノ節ハ出張先)ヘ届出ヘシ戶長店長ニ在テハ郡長ヘモ報告スヘシ

但緩急見計ヒ電信又ハ急使ヲ以テ申報スヘシ

第五條 徵發ヲ課セラレタルトキハ必ス所轄郡長若クハ郡書記派出幹旋スヘシ但時宜ニ依リ縣官ヲ派遣シ事務所ヲ設ケ諸般ノ事務ヲ整理監督セシムルコトアルヘシ

第六條 郡長ハ事務條例第四十一條ニ從ヒ徵發人馬ノ供給ヲ便宜ニセシカ爲メ地理人情等ヲ量リ隣郡長ト商議シ近傍町村ヲ適宜ニ割合組合ヲ定メ置クヘシ

但創定及改定共其時々郡長連署縣廳ヘ届出ヘシ

第七條 徵發令第三十五條及ヒ第三十八條ニ掲ケアル令第十五條第二項乘馬、駄馬、駕馬、車輛其他運搬ニ供スル獸類及器具同第三項人夫ノ平常賃價雇賃借賃ハ戶長ニ於テ附録第一號書式ノ通取調郡長ヘ差出シ郡長ハ之ヲ取纏メ置キ事務條例第五十一條ノ場合ニ於テ參照ノ便ニ供スヘシ

第八條 徵發令第十二條第九項同第十三條第一項第三項ノ種類ト事務條例第七號雜形平均物價表ニ掲載セサル物産ノ價格ハ戶長ニ於テ取調置キ前條ノ便ニ供スヘシ

第九條 各町村ハ戶長管理町村ヲ一組合トシ供給及輸送費等ヲ負擔セシム

第十條 戶長ハ徵發令第十二條第一項ノ供給ヲ便宜ニセシカ爲メ組合内各營業者ノ種類ニ從ヒ互ニ組合ヲ立テ一組合ニ總代人若ク名ヲ置キ徵發ニ應スル事務ヲ辦理セシムルモ妨ケナシ

但制定及ヒ改定共其時々方法並ニ總代人住所姓名等郡長へ届出ヘシ

第十一條 徵發物件ヲ差出場所ニ輸送スル費用ハ徵發令第三十條及事務條例第四十條ニ依リ其徵發區郡町村ノ負擔ナルヲ以テ郡長戸長ニ於テ豫メ賦課方法ヲ定メ置ヘシ

第十二條 左ニ掲ケル各地所轄ノ郡長ハ事務條例附錄第七號書式ニ準シ其地前三ケ年ノ平均物價表ヲ調製シ毎年二月末日マテ縣廳ニ差出スヘシ

南村山郡山形

飽海郡酒田

西田川郡鶴岡

南置賜郡米澤

第十三條 徵發令第三十四條ノ平均物價表及事務條例第五十七條ノ縣會議員旅費日當額等ヲ毎年縣廳ヨリ郡長へ報告スヘシ

第十四條 徵發物件ヲ賦課スル時ハ附錄第二號雛形ニ依リ賦課スヘシ

第十五條 徵發物件ヲ賦課シタル官憲ハ其受領證票ヲ縣令郡長戸長へ交付スルヲ以テ縣令ヨリハ郡長戸長又ハ供給ヲナシタル本人へ郡長ヨリハ戸長又ハ供給ヲナシタル本人へ戸長ハ供給ヲナシタル本人へ附錄第三號書式ニ依リ受領證票ヲ交付スヘシ

第十六條 賠償金ヲ請求スルトキハ前條ノ受領證票ヲ添ヘ差出スヘシ

第十七條 戸長ハ事務條例附錄第三號一ノ雛形ニ準シ徵發物件表ヲ製シ毎年一月三十一日迄郡長ニ差出シ郡長ハ更ニ式ノ如ク製表シ三月末日迄縣廳ニ差出スヘシ

第十八條 戸長ハ事務條例附錄第三號二ニ準シ徵發物件表ヲ調製シ毎年一月三十一日迄郡長ニ差出シ郡長ハ更ニ前表式ニ依リ一郡ノ總表ヲ製シ前同日迄縣廳ニ差出スヘシ

同上

明治十九年六月丙第十二號

スヘシ

第十九條 戸長ハ事務條例附錄第五號一ニ準シ船舶及汽船表ヲ調製シ毎年一月三十一日迄郡長ニ差出シ郡長ハ前條ノ如ク製表シ同時ニ之ヲ縣廳ニ差出スヘシ

但新ニ構造シ若クハ買入タル汽船アルトキハ其時々戸長ハ事務條例附錄第五號三ノ雛形ニ依リ汽船表ヲ製シ郡役所ヲ經テ之ヲ縣廳ニ差出スヘシ

徵發物件調査方梗概

第三號ノ一

一本表ハ美濃紙ヲ用ヒ一郡一市毎ニ調製ス三府ノ一ハ一區毎ニ調製スヘキモノトス

二 表式第二行何郡(市)ハ三府ニ於テハ何市何區ト記スヘキモノトス

三 甲部ノ計ハ府又ハ市ニ於テ別ニ一市ノ計ノミチ一表ニ調製シ各區ノ末ニ添付スヘキモノトス

四 合計ハ府縣ニ於テ別ニ甲部乙部ノ合計ノミチ一表ニ調製シ各都市ノ末ニ添付スヘキモノトス

五 乙部上欄第二行(何町)第三行(何村)ハ町村ノ區域内人家連接セルト散在セルトニ拘ハラヌ町村制實施ノ際他町村ト合併セサリシモノ即舊町村ヲ掲ケルモノトス
町村制實施ノ際數町村ヲ合併シテ成立シタル新町村ニシテ其町村内ノ人家連接シタルモノモ亦第二第三行ニ記載ス其人各家部落ニ散在シタルモノハ第四行ニ記載スルモノトス

明治二十一年三月十一日
五月十一號

- 六 同第五行組合町村ハ乙部第二行第一行ノ例ヲ本書第一行ニ記シ乙部第二行ニ記スヘキモノトス
- 七 家屋書内戸數ハ現在軒數ヲ掲クヘキモノニシテ其軒數トハ官廨寺院學校製造所水車場倉庫廩病院ヲ除クノ外人ノ現在住居スルト否トニ拘ハラズ市區町村内ニ現在ナル家屋ノ棟數ヲ云フ又家屋ノ全部若クハ幾部ヲ官署學校市區役所町村役場等ニ使用スルモノモ本書ニ算入スヘキモノトス
- 八 官廨書ハ官署及市區役所町村役場等ノ箇數ヲ記入スヘキモノトス
- 九 寺院書内軒數ハ寺院内ニ堂庵幾棟數アルモ之レヲ分別セズ一寺院ヲ一軒トシ計算スヘキモノトス
- 十 學校書内軒數ハ學校内ニ教場寄宿舍等幾種アルモ之レヲ分別セズ一學校ヲ一軒トシ計算スヘキモノトス
- 十一 製造所ハ公立私立ノ別ナク又製造物品ノ種類如何ニ拘ハラズ總テ掲クヘキモノトス但官立ニ係ルモノハ官廨ノ箇數ニ記入スヘキモノトス
- 十二 水車場ハ水車及蒸氣器械ノ別ナク一担以上ヲ擣春スル箇數ヲ記入スヘキモノトス
- 十三 病院書内軒數ハ病院内ニ病室幾棟數アルモ之レヲ分別セズ一病院ヲ一軒トシ計算スヘキモノトス
- 十四 日本形船舶内舳漁小廻ノ書ハ日本形船舶五十石未満及倉庫船水田耕作用船及水災豫備船ヲ算入シ漁船ニ非サル西洋形船舶二十噸以上五十石以上ノ書ハ二十噸未満ハ舳漁小廻ノ書ヘ朱記列記スヘキモノトス但遊船渡船橋用船ハ表上スルニ及ムス
- 十五 醫師及職工ノ順序ハ表式ノ順序ニ從テ記入ス職工ヲ他ノ職工ヲ混入セズ表式ニ記載シタル職工ニ限リ記入スヘキモノトス但一名ニシテ兩業ヲ兼スルモノハ管ヘハ木挽職ニテ柚業ヲ兼スルモノハ木挽職何名(内何名柚業兼業)ト記入シ柚職何名ノ内ヘ算入セサルモノハ又表式職工中其郡市ニナキモノハ其ナキヲ記スルニ及ム

第三號ノ二

徵發

- 一 本表記載方ハ前第三號ノ一第一項乃至第六項ノ例ニ依リ調製スヘキモノトス
- 二 乘馬ハ現在乘馬ニ役スルモノヲ記載ス又曾テ乘馬ニ役セシモノハ現今駕馬馱馬耕馬ニ役スルモノト雖トモ乘馬ノ書ニ記載スヘキモノトス
- 三 駕馬ニ役スルモノヲ記載ス又曾テ駕馬ニ役セシモノ(現在乘馬ハ除ク)現今馱馬耕馬ニ役スルモノト雖モ駕馬ノ書ニ記載スヘキモノトス
- 四 馱馬ハ現在馱馬ニ屬スルモノヲ記載ス又曾テ馱馬ニ役セシモノ(現在乘馬駕馬ハ除ク)ハ現今耕馬ニ役スルモノト雖モ馱馬ノ書ニ記載スヘキモノトス

第三號ノ三

- 一 本表記載方ハ前第三號ノ一第一項第三項第四項ノ例ニ依リ調製スヘキモノトス
- 二 玄米ハ陸米糯米トモ算入スヘキモノトス
- 三 漬物ハ澤庵漬ヲ記入スヘキモノトス
- 四 一樽ハ四斗入ヲ以テ計算スヘキモノトス

○乙第二十八號 明治十九年三月十八日

徵發物件輸送費賦課徵收規則左ノ通相定候條此旨布達候事

徵發物件輸送費賦課徵收規則

- 第一條 本則ハ明治十五年太政官第四十三號布告徵發令第三十條ニ依リ縣徵發區ニ屬スル同第十二條第一項ノ物件ヲ差出場所ニ輸送スル費用ヲ賦課徵收スルノ方法トス
- 第二條 臨時輸送費ヲ要スル時ハ豫算ヲ定メ本則第三條第四條ニ依リ管内ニ賦課スヘシ

但時機切迫シテ徵收スルノ日時ナキトキハ便宜ノ方法ヲ以テ一時繰替支辨スルコトアルヘシ

第三條 輸送費ハ戶數割地租割ニ依リ賦課徵收ス

但地方稅賦課徵收方法ニ依リ戶數割地租割ヲ免除セラレタルモノハ本則ニ於テモ亦免除スヘシ

第四條 輸送費算額ナルトキハ戶數割若シクハ地租割ノ一法ニ賦課スルコトアルヘシ

第五條 輸送費賦課徵收ヲ令達シタル時ハ戶長役場ニ納付シ戶長ハ之ヲ郡役所ニ送付シ郡長ハ之ニ明細書ヲ付シ縣廳ヘ差出スヘシ

第六條 輸送費精算ニ臨ミ剩餘ヲ生シタル時ハ豫備費トシテ縣廳ニ儲蓄シ他日ノ費用ニ充ツルモノトス

但此場合ニ於テハ銀行等へ預ケ置キ相當ノ利子ヲ増殖スヘシ

第七條 輸送費精算完結シタルトキハ管内ニ告示スヘシ

○丙第八十一號 明治十九年四月九日

郡 役 所

郡徵發區ニ係ル物件輸送費賦課徵收規則設定候節ハ規則相添可届出此旨相達候事

但規則變更候節モ同様可届出事

○訓令第六十五號 明治二十三年九月二十四日

郡 市 役 所

本月三日勅令第九十六號ヲ以テ徵發事務條例第二十四條改正ヲ付徵發物件表調製方ノ儀左ノ通陸軍大臣ヨリ訓令相成候條右ニ據リ取計フヘシ
陸軍省訓令第十五號

道 廳 府 縣

今般勅令第九十六號ヲ以テ徵發事務條例第二十四條改正ニ依リ二年毎ニ徵發物件表ヲ製シ翌年三月三十一日限リ陸軍省ニ送附スルハ本年十二月調ヲ以テ第一回トシ二十五年十二月調ヲ以テ第二回トシ自後之ニ準ズル儀心得ヘシ
但條例第二十一條ニ依リ郡區長ニ於テ製表ノ儀モ毎年調製ヲ要セス本文同様ノ儀ト心得ヘシ

明治二十三年九月十九日 陸軍大臣 伯備大山巖

○訓令第七十二號 明治二十三年 十月二十二日 郡 市 役 所

徵發物件取調ノ儀ニ付陸軍大臣ヨリ別紙ノ通訓令相成候條右ニ據リ調製スヘシ
陸軍省訓令甲第十六號 道 廳 府 縣

勅令第九十六號ヲ以テ改正相成候條徵發事務例附錄第三號ノ一表式中船舶ハ日本形ノミ記載ノ例ニ候處徵發物件取調上汽船ニ非ラサル西洋形船舶モ入用候條西洋船舶（汽船ヲ除ク）二十噸以上ハ日本形船舶五十石以上ノ區畫ニ二十噸未満ハ解漁小廻ノ區畫ニ朱

書記入差出様取計フヘシ
明治二十三年十月二十日

陸軍大臣 伯備大山巖

第三章 兵事會

○達兵第二號 明治二十三年 一月二十日

郡 役 所

郡兵事會規則別紙ノ通相定ム

郡兵事會規則

- 第一條 本會ハ兵事上一切ノ事務畫一ニ整頓セシムルヲ目的トス
- 第二條 會員ハ主任郡吏員町村長ヲ以テ之ニ充ツ
但助役ニ兵事々務ヲ分掌セシメタルトキハ其助役ヲ以テ會員ニ充ツルコトヲ得
- 第三條 會長ハ郡長ヲ以テ之ニ充ツ
但事故アルトキハ上席郡書記ヲシテ代理セシムヘシ
- 第四條 議案ハ郡長之ヲ發シ主任郡書記ヲシテ説明セシムヘシ
但會員ノ提出ニ係ルモノハ發案者之ヲ説明スヘシ
- 第五條 議事ノ筆記及會議ニ關スル庶務ハ郡吏員之ヲ掌ル
- 第六條 議事細則ハ郡長ニ於テ適宜之ヲ定ムヘシ
- 第七條 兵事課員及大隊區司令部員又ハ監視區長ハ隨時臨席スルコトアルヘシ
- 第八條 本會ハ毎年一回之ヲ開キ其日數ハ五日以内トス

第九條 開會期日ハ郡長之ヲ定メ會員ニ達シ十五日前兵事課ニ報知スヘシ
 第十條 決議書閉會後十日以内縣廳ニ差出スヘシ
 ○達三第三十二號 明治二十四年 四月二十三日

郡市役所

明治二十二年(十二月)達二兵第五四三號兵事會規則左ノ通改正ス

兵事會規則

- 第一條 本會ハ兵事上必要ノ事項ヲ商議スルモノトス
- 第二條 本會ハ毎年一回之ヲ開ク其日數ハ凡七日以内トシ開會期日ハ其都度之ヲ達ス
- 第三條 會長ハ內務部長ヲ以テ之ニ充ツ內務部長事故アルトキハ第三課長ヲシテ代理セシム
- 第四條 會員ハ各郡市役所兵事主任郡書記ヲ以テ之ニ充ツ
- 第五條 議案ハ縣廳ヨリ之ヲ發シ第三課員ヲシテ説明セシム
- 第六條 議事ノ規則ハ普通ノ例ニ據ルト雖トモ會長ノ見込ヲ以テ便宜變則ヲ用ユルコトヲ得
- 第七條 議事ノ筆記其他本會ニ關スル諸務ハ第三課員ヲシテ之ヲ掌ラシム
- 第八條 本會ニ於テ議決シタル事項ト雖トモ知事ノ見込ヲ以テ取捨スルコトアルヘシ

●第九編 社 寺

○丙第二十三號 明治九年 十一月二十四日

各區

戶區 長

社寺境内ノ儀ハ專ラ祭禮法用ノ爲メニ有之候處自己ノ都合ニ任セ人民住居ノ家作ヲ取立
 又ハ田畑ヲ開キ社寺ノ風致ヲ損シ候類往々有之不都合ニ候條以來右様ノ儀ハ屹度令禁止
 候依テ此旨布達候事

但諸人便宜ノ爲日々出店ノ茶見世等ニ至ル迄終ニ人民居住ノ家作ニ變シ候類不少ニ付
 是等ノ儀モ容易ニ不相成候若シ不得已事情有之候節ハ可致出願事

○丙第二十四號 明治九年 十一月二十四日

各區

戶區 長

社寺宮殿堂宇ハ勿論所屬ノ建物ニ至迄再建又ハ營繕致候節ハ繪圖面等相添出願ノ上許可
 ヲ得テ修繕可致依テ此旨布達候事

但火災風損等ノ節モ其都度可届出儀ト可相心得候事

○乙第五號 明治十年 一月十七日

各區

教部省ヨリ別紙御達有之候條此旨布達候事

(別紙)

教部省達書第三十八號

明治九年十一月十五日

區長

府縣

從來人民私邸内等ニ自祭ナル神祠佛堂へ衆庶參拜爲致候向モ有之自然一般社寺同様ノ姿ニ相成不都合候條自今總テ參拜可差停候尤其建物等更ニ信向人共有ノ筋ヲ以テ尙參拜ノ儀願出候ハ、永續方法並神官僧侶ノ受持等夫々取調爲申出候上管轉廳見込相立可伺出此旨相達候事

事

但從前願濟ノ分ト雖モ建物等一己私有ニ屬スル向ハ本文ニ準シ詳細取調處分方可伺出

○乙第二十號

明治十一年二月十九日

各區

區長

縣鄉村社例祭及臨時祭等神事ニ際シ該境內等ニ於テ一時賑ハヒノ爲或ハ舊例ニ依リ假ニ舞臺ヲ設ケ木戸錢無之手踊亦ハ角力等致來候處向後右施行ノ節ハ該町村差配人ヨリ所轄

警察分署へ可届出此旨布達候事

但無届ニシテ右等ノ所業一切不相成事

○丙第五十三號

明治十一年三月二十五日

各區

五六七大區ヲ除ク

祠官 祠掌

寺院 住職

區長 區長

社寺所藏ノ寶物什器取調ノ儀ニ付テハ壬申八月三日舊教部省第十二號御達並昨十年七月十六日本縣甲第百十六號ヲ以テ及布達候内務省甲第十三號御達モ有之就テハ今般管内大小ノ社寺ニ於テ所藏ノ寶物什器舊朱黑印地高並所有ノ田畑山林等別紙雛形ニ照準詳細取調右帳簿三部宛編製致シ各社寺ノ區分ヲ別テ一部ハ區内一同取纏メ來ル六月三十日限本縣へ可差出一部ハ其社寺へ備置一部ハ小區務所へ備置可申依テ此旨相達候事

○印ハ朱書ナリ

○雛形

某社寺寶物什器其外取調目錄

第一類

社 寺

一棟札

一枚

年月

人名

。但寫本ヲ附スベシ

一縁起書

何巻

年月誰撰

同 誰筆

一文書

。但寫本ヲ附スベシ 若シ寫取カキ物ハ其槩略ヲ鈔録スベシ

一通

年月誰撰

同 誰筆

寄附人或ハ傳來ノ所由

。但影本ヲ附スベシ

一鏡

一面

銘

寸法

摸樣

寄附人或ハ傳來ノ所由

一匾額

一面

年月誰筆

寸尺摸樣

寄附人或ハ傳來ノ所由

。但格別由緒有之ヲハ圖本ヲ附スベシ

一玉

一箇

色

寸法

寄附人或ハ傳來ノ所由

或ハ太刀

又ハ短刀

一口

寸尺

燒刃

裝具ノ地金摸樣並銘

寄附人或ハ傳來ノ所由

。但格別由緒有之ヲハ圖本又ハ中心帽子摸樣等ノ摺本ヲ添フベシ

一古金又ハ古錢

一枚

鑄文

目方

寄附人或ハ傳來ノ所由

。但古錢等ハ圖本又ハ摺本ヲ添フベシ

一古印

印文

鈕形

寄附人或ハ傳來ノ所由

。但印影並鈕圖等ヲ添フベシ

第二類

一書籍

年月日誰撰

寄附人或ハ傳來ノ所由

一鈴或ハ枕鐘

又ハ鱗口

寸尺模樣

寄附人或ハ傳來ノ理由

。但格別由緒有之分ハ圖本ヲ附スベシ

一顆

何卷

一口

一鎗

銘

寸尺

寄附人或ハ傳來ノ所由

一薙刀

同上

一弓

同上

一矢

同上

一鐵炮

和筒又ハ西洋筒

寄附人又ハ傳來ノ所由

一甲冑

銘

威シ毛

寄附人或ハ傳來ノ所由

一馬具

何本

何張

何張

何筋

何領

銘

地色摸樣

寄附人或ハ傳來ノ所由

一琴

銘

寄附人或ハ傳事ノ所由

一笛

同上

一御輿又ハ厨子

寸尺

塗摸樣

寄附人或ハ傳來ノ所由

一祭具

同上

一佛具

同上

一幕

地

一面

何基

何基

員數

員數

員數

何張

紋

寄附人或ハ傳來ノ所由

一金

寄附人或ハ傳來ノ所由備ノ方法

一舊朱黑印地

一田

某國某郡某村字某ニ有之候

寄附人又ハ傳來ノ所由

一畑

同上

一山林

同上

。此佗古器及古書書具武文具古玉石劔祭具佛具等ニ至ル迄部類ヲ推シ料紙ハ半紙ヲ

以テ十行トナシ天ハ一寸六分地ハ八分綴代ハ一寸六分ヲ明ケ錐形ニ照シ詳細記載

可致事

右之通取調奉差上候處相違無之候也

何圓何錢

何石何斗

何町何反何畝步

同上

同上

山形縣下第何大區何小區何村

某社寺祠官掌又ハ住職

年月日

誰印

○但村社以下無格ノ神社ハ專ラ受持
神官ニテ取調可申又無住ノ寺院ハ
專ラ法類等ニテ取調可申候
右村某社寺氏子又ハ檀越惣代

右小區戶長

誰印

山形縣御中

○丙第二百八十九號 明治十二年
十二月二十日

郡役所

府縣社以下祠官祠掌ノ等級ヲ廢シ身分取扱ハ一寺住職同様タルヘキ旨公達ノ趣モ有之ニ
就テハ祠官祠掌進退ノ節ハ從前ノ手續ニ準シ爲願出許可スヘキ旨內務省ヨリ被達候ニ付
自今辭令書下附候儀廢止候條此旨相達候事

○丁第十四號 明治十三年
三月九日

町村戶長

縣社以下神官並寺院住職等死亡ノ節ハ可届出ノ處往々等閑ニ打過候向有之調査差支候條
自今神官ハ親族並其奉仕ノ社氏子惣代連署寺院住職ハ本寺法類ノ内及檀家惣代連署死亡

後七日以内可届出旨神官並寺院住職ニ可相達候事

○丙第二十號 明治十四年
一月三十一日

郡役所

社寺佛堂祭典法會緣日等衆庶群集ノ節ハ警察上ノ都合モ有之候條前以最寄警察署又ハ分
署ニ可届出旨神官僧侶ニ可相達此旨相達候事

○丙第三百三十一號 明治十四年
八月十三日

郡役所

明治二十年五月十日
達三號

今般內務省ヨリ社寺收入財産之儀達ノ趣モ有之候條縣社以下社寺收入財産得ハ勿論賽物
祈禱葬儀回向料等一其社寺有ニ屬スヘキモノト其神官住職ニ付スルモノト豫約每社寺
切ノ受納物ヲ云フ 適宜相定平素混亂セサル様取調ノ上調書爲差出其役所ニ可備置此旨相達候事

○丙第十四號 明治十五年
一月二十五日

郡役所

前段ハ明治十八年
丙第十八號
八號ヲ以テ
消滅

神社氏子或崇敬人並寺院檀徒又ハ信徒惣代人選定ノ儀客年丙第七十九號同第百三十號ヲ
以テ相達置候處往々惣代貳名或壹名ニテ差出候向モ有之取調方差支候條社寺堂ニ係ル願
伺届書ハ都テ神官住職並氏子檀家或崇敬人信徒等ノ惣代人三名連署ノ上可爲差出此旨相
達候事

但神官住職選舉狀其他雛形中氏子檀徒崇敬人惣代貳名ト有之分共本文ニ準候儀ト可相
心得候事

○乙第五十八號

明治十五年五月十一日

各町村鎮座氏神ノ儀ハ其土地ニ就キ從來一定ノ區域有之儀ニ付各自ノ信否ニ任セ猥ニ去就スヘキモノニ無之候條町村分合等ニヨリ不得已甲社ノ氏子一部落舉テ乙社ノ氏子ト相成度節ハ甲乙兩社神官氏子協議ノ上双方連署可届出此旨布達候事

○丁第二十二號

明治十五年五月二十日

神官僧侶ニテ犯罪法術ノ處分ヲ受候者有之節ハ宣告書寫相添速ニ可届出此旨相達候事

○丁第三十七號

明治十五年八月十五日

町 村 戸 長

社寺境内樹木伐採願取扱方之儀別紙之通被達候條爲心得神官住職及社寺堂關係之者へ可相達此旨相達候事

(別紙)

内務省達番外

明治十五年八月二日

府 縣

社寺境内樹木伐採之儀ハ明治六年第二百三十五號公布並八年第七號公達九年當省並敎部省第十二號達十二年當省乙第三十三號達之趣有之官有地ニ係ルモノハ當省ニ伺出處分之管ニ候處近來修繕之爲メ多分之伐木願出候向モ有之然ルニ社寺境内ハ修繕用材培植之地ニ無之數百年來之古木一朝地ヲ拂ヒ遂ニ風致ヲ毀損スル向モ不少候條自今請願之節ハ

不得止分ニ限リ別紙條規ニ照シ取扱候條右廉々調査之上伺出此旨爲心得示達候事

但縣限リ處分ニ係ル民有地第二種ハ勿論民有地第一種ニアル社寺境内樹木ト雖モ本文之振合ヲ以取扱フヘシ

社寺境内伐木取扱概則

第一條 社寺境内木ヲ五類ニ分テ風致木目通寸間ニ拘ハラヌチ第一類トシ目通り一丈以上チ第二

類トシ同五尺以上チ第三類トシ同一尺以上チ第四類トシ同一尺未滿チ第五類トス

第二條 第一類第二類ノ木ハ伐採ヲ許サス

第三條 第三類ハ總木數十分ノ一十本ニ付一本 第四類ハ同十分ノ二十本ニ付二本ニ以內伐採ヲ許スコト

アルヘシ

第四條 第五類ハ別ニ分通チ定メヌ生立ノ爲メ拔伐ノ外伐採ヲ許サハルモノトス

第五條 社ハ本殿拜殿寺ハ本堂庫裏ノ造修用材ニ限リ第三條ニ據ルモノトス

但必ス仕樣書具申セシム

○丁第四十三號

明治十五年九月十一日

町 村 戸 長

皇典講究所設置ニ付府縣社以下神官選舉之儀別紙内務省乙第四十六號ヲ以被達候條爲心得各社神官氏子惣代之者へ可相達候事

(別紙)

○内務省乙第四十六號

明治十五年八月三十日

府

沖繩縣

今般皇典講究所設置ニ付府縣社以下神官選舉ノ節該所ノ卒業證書無之者ハ皇典講究本分所ノ試験ヲ受サセ試験済ノ證書ヲ相渡候等ニ付今後選舉出願ノ向ハ該所卒業證書寫若クハ試験済ノ證書ヲ副へ願出候者ニ限リ認可ヲ與へ候儀ト可心得此旨相達候事

○丁第六十一號 明治十五年十一月二十九日

町村 戸長

別紙内務省乙第五十九號之通達相成候條今後ハ總テ期限内建設或ハ再建セシメ落成之旨届出候條可取計若シ期限ヲ過キ何等不届出モソハ一面許可ヲ停メ一面社寺明細帳ヲ削除候條爲心得神官住職及ヒ社寺堂宇關係之者へ可相達此旨相達候事

(別紙)

○内務省乙第五十九號 明治十五年十一月

各府縣管内神社寺院等創立再興復舊許可ノ分ハ今後滿二年以内ニ建設セシムヘシ其建物巨大ニシテ工事數年ニ涉ルヘキモノハ更ニ狀ヲ具シ伺出許可ヲ受ル者トシ其他在來ノ社寺ニシテ變災ニ遭ヒ建物悉皆烏有ニ歸スル者滿五年ニ再建セシメ何レモ毎月未取纏メ當省へ可届出若シ右期限ヲ過キ建設セサル者ハ一面許可ヲ停メ一面社寺明細帳ヲ削除更ニ届出候義ト可心得此旨相達候事

○丁第十四號 明治十六年四月十三日

戸長 役場

縣社以下祠官祠掌ノ儀ハ定員無之候得共欠員ノ儘數月差置候テ亦大ニ崇敬ノ趣旨ニ悖リ候ニ付自今別紙ニ依リ選舉候條縣社以下神官及ヒ氏子惣代ノ者等へ可示置此旨相達候事

(別紙)

縣社

祠官

祠掌

鄉社

祠官

祠掌

但社務繁閑ニ依リ増減適宜タルト雖トモ其都度允許ヲ可受事

壹員

壹員

但社務繁閑ニ依リ増員若クハ他社ヨリ兼務スルモ妨ケナシ尤増員ハ豫メ允許ヲ可受事

壹員

但前同斷

無格社

縣社以下神官ノ内ニテ受持

但社務ヲ都合ニヨリ專務祠掌差置度向ハ豫メ允許ヲ可受事

社 寺

一四

○丁第二十八號 明治十六年五月十八日

戶長 役 場

縣社以下神社ニ附屬ノ講社ニテ教法部類ニ不關モノ新ニ結集スル者ハ結社方法規約書相添可願出旨各社神官ニ可相達此旨相達候事

○乙第二十八號 明治十六年五月十八日

神社寺院ノ守札ト可認モノ及神佛號ヲ記載セル畫像ハ其神社寺院ノ外出版不相成旨內務省ヨリ達有之候條此旨布達候事

但從前屆濟ノ分ト雖モ本文ニ抵觸候向ハ更ニ可願出候事

○丁第十四號 明治十七年四月一日

戶長 役 場

寺院佛像他管ニ持出開帳之儀ニ付別紙內務省乙第十六號ヲ以テ達相成候條寺院住職檀家總代(無檀家ノ寺院ハ信徒總代)可告知此旨相達候事

○內務省乙第十六號 明治十七年三月

明治九年教部省第四號布達廢止候條自今寺院佛像他管持出開帳ノ義ハ該寺住職檀家總代無檀家ノ寺院及本寺法類連署ノ上本山ノ添書ヲ以テ甲乙兩管廳ニ出願セシムヘシ

但寶物持出ハ不相成儀ト心得ヘシ

○丙第二百六十三號 明治十七年九月十八日

郡 役 所

戶長 役 場

縣社以下神官並寺院住職社用法用ニテ他行ノ節ハ郡役所ニ屆出來候處自今所轄戶長ニ屆出候様各神官住職ニ可相達此旨相達候事

○丁第五十二號 明治十七年十月十一日

戶長 役 場

寺院住職任免各管長(御委任ノ儀本年八月)第十九號ヲ以布達相成候ニ付テハ爾後住職任免轉住共其都度該寺住職及檀徒(檀徒無之寺院ハ信徒總代)ノ者連署三日以内屆出候様寺院住職及檀徒信徒總代ノ者ニ可相達此旨相達候事

但新任轉住ハ左ノ履歷書ヲ添フヘシ

履歷書雛形

履 歷 書

何府縣士族何國何郡何町何番地

何ノ誰長次男或弟又ハ何某附籍

何宗派何寺住職徒弟ナラハ何寺

住職何ノ誰徒弟

教師ノ等級 姓 名

年月日生

何年何月何日

何 府 縣

何國何郡何町何寺院住職申付候事

何年何月何日
補何々職或ハ
試補申付候事

太政官或ハ内務
省又ハ管長姓名
姓名
名 印

右ニ照準辭令面ヲ騰記シ年月日ヲ追ヒ記載スヘシ

○丙第三百五號 明治十七年十一月十一日

郡 役 所
戶 長 役 場

別紙内務省乙第三十八號之通達相成候條爲心得相達候間其向々ヘモ無洩可相達此旨相達候事

(別紙) 内務省乙第三十八號

府 縣

別紙戊第二號之通神佛各管長ヘ相達候條第二項ノ件出願許可又ハ届出ノ分共月末取纏メ當省ヘ可届此旨相達候事

○丁明治十七年十月三十日

内務卿 山縣有朋

戊第二號 神佛各管長

一 教師僧侶ノ現數ハ華族士族平民ニ分テ半年毎ニ取調翌一月七月兩度當省ヘ届出ツ

可シ

但東京ノ教務所ニハ全國教師僧侶ノ姓名及各地方教務所說教所ノ所在等ヲ詳記セ

一 教務所 教院 教會 所 法 務 所 說 教 所 說 教 所 取 設 ハ 從 前 ノ 手 續 内 履 等 地 方 廳 へ 願 出 其 移 轉 廢 合 ハ 届 出 ツ 可 シ

一 但教務所ニハ教師ノ姓名ヲ詳記セル帳簿ヲ備置ク可シ

一 祠宇並寺院ノ廢立及財産ニ關スル諸願ハ管長添書ス可シ

一 寺院住職進退ハ其都度地方廳ヘ届出ツ可シ

右相達候事

明治十七年十月三十日

内務卿 山縣有朋

○丙第三百三十五號

明治十七年十二月二十五日

郡 役 所

戶 長 役 場

近來各地ノ神官僧侶及其他ヨリ建碑或ハ祠宇建築及修繕或ハ神佛等ノ儀ニ關シ寄付金若クハ募集金ノ儀ニ付管下人民ヘ諭達等之儀出願ノ向モ有之候處右ハ人民ノ信仰上ヨリ可成立モノニ自今該件ニ付テハ人民相對ノ歸依ニ任セ當廳ニ於テハ一切關涉不致旨各縣ヘ照會置候條爲心得此旨相達候事

但官ノ許可ヲ受ケタル事件ト否トハ時宜ニ依リ告知スルコトアルヘシ

○丙第四十四號

明治十八年
二月十九日

郡 役 所

客年内務省乙第三十七號及乙第三十八號達相成候處從前同省ニ於テ取扱之例等左記之通
ニ候旨通知之次第モ有之候條爲心得此旨相違候事

一 教務所說教所等ノ數ハ内務省ト地方廳トノ許可ヲ問ハス總テ現在ノ數ヲ取調ルモノトス

一 祠宇ハ寺院ノ如ク宗教部内ニ屬スルモノニシテ即チ十五年内務省乙第四號達ニ據リ出願許可ノモノニ限ル仍テ縱令教會講社ノ事務ヲ執リ亦ハ說教ヲ行フモ別ニ認可ヲ要セサルモノトス

但殊ニ教會講社名ヲ唱ヘ信徒ヲ結集スルモノハ更ニ出願ヲ要ス尤寺院ト雖モ本項ニ準ス

一 教務所說教所等ハ一般社寺ト異ナレハ永續資本等ノ調査ヲ要セス且地所建物等他人ノ所有ニ係ルト雖モ其所有主ノ貸與證寫シヲ添フル歟亦ハ所有主連署ヲ以テ願出ツレハ妨ケナシ

一 同上出願手續キハ信徒若クハ講中總代及擔任教師連署ノ書面ヘ管長添書ノ上圖面ヲ添ヘ願出ツルモノトス

但管長ヨリ直チニ願出ルモ妨ケナシト雖トモ其手續ハ本文ニ據ルヘシ
教會講社ノ名稱而已許可ヲ得信徒ヲ結集セント欲スルモノニシテ教師ノ願ニ係ルハ

管長ヲシテ添書セシメ管長ノ願ニ係ルハ受持教師ヲ定メ連署セシムルモノトス

一 教務所說教所等ニ於テ殊ニ神殿若クハ堂宇等ヲ設ケ社寺ニ摸擬スルモノ亦ハ府縣國名ヲ冠スルモノ及官衙ノ稱呼ニ倣フモノ其他不穩當ト視認ムル向ハ許可セサルコトアリ

一 同上ニシテ他管内ヨリ移轉スルモノハ更ニ取設ノ手續ヲ履マシムルモノトス

○丁第七號 明治十八年
二月二十七日

戶 長 役 場

社寺佛堂等ヘ地所建物々品等寄附ノ者有之節是迄届出ノミニシテ明細帳ヘ記入方不願出向不勘不都合ニ付以後届出ニ不及候條神官住職氏子檀家總代(氏子檀家無之向ハ崇敬人又ハ信徒惣代)寄附人連署(寺院ハ本寺法類連署管長ノ添書ヲ要ス)直ニ明細帳ニ記入方出願可致旨縣社以下神官並各住職及ヒ氏子檀家崇敬人信徒惣代ノ者ヘ可相違此旨相違候事

但境内寄附地又ハ賣買地其他調達引直シ等ノ類ハ先以其旨出願許可ノ上(地種及ヒ地目變換ニ係ルモノハ其手續ヲモ悉皆結了ノ上)本條ニ準シ(許可ノ年月日ヲ記載スヘシ)可爲願出儀ト可相心得事

○丁第十四號 明治十八年
四月九日

戶 長 役 場

社(國幣社ヲ除ク)寺總代人ノ儀氏子檀家中(氏子檀家ナキモノハ崇敬人又ハ信徒)相

明治二十
四年五月
達三第
十九號

應ノ財產ヲ有シ衆望ノ歸ルルモ三名以上相選シ戸長役場ニ爲届出名簿備置今後該社寺ノ願届等ハ渾テ連署ヲ以テ差出サスヘシ

但總代人ハ滿三年毎ニ改選スヘシ且該總代人ヲ再三當選スルモ妨ケナシト雖モ期限中犯罪其他不良ノ所爲アルトキハ臨時改選セシメ異動ノ都度爲届出名簿ヲ訂正スヘシ

○丁第十五號 明治十八年 四月十一日

戸長 役場

僧侶托鉢免許ヲ受ケタル節是迄届出ノ者モ有之候處右ハ十四年内務省乙第三十八號達托鉢者心得書ノ通托鉢ノ節ハ免許證ヲ携帶シ警察官等ヨリ尋問ヲ受ケタルトキ該證ヲ檢閱ニ供シ候ノミニテ今後届出ニ不及候條其旨各僧侶ニ可相達此旨相達候事

○丁第四號 明治十九年 一月

戸長 役場

縣社以下神官辭職出願ノ向ハ最寄祠官祠掌ノ中及氏子(氏子無之社ハ崇敬人)總代人連署戸長與印ノ上差出候様更ニ神官ニ可達置此旨相達候事

但十七年(三月)丁第十二號達ハ廢止ス

○乙第三十七號 明治十九年 三月十五日

明治十三年(二月)乙第二十七號ヲ以テ神官並任職選舉書式及布達置候處別紙ノ通改正候條此旨布達候事

但明治十三年(八月)乙第百六十一號布達ハ廢止ス

神官選舉書式

縣郷 祠官選舉ノ儀ニ付願

御管内何郡何町鎮座村社某神社祠官何々ニ付欠員ニ相成社務神勤等差支候間何郡何村(神官奉仕ノ者ナレハ社名職名)何某儀品行正ク神職當器ノ者ニテ氏子(氏子無之社)一同歸依罷在候ニ付(祠官掌奉職ノ者ナレハ同社氏子ニモ打合候處)右何神社祠官ニ選舉候間御聞届被下度別紙皇典講究本分所ノ卒業證(或ハ學證又ハ假學證)及履歷書相添奉願候也

何郡何町村

某神社氏子或ハ崇敬人總代

何 之 誰 印

三名以上連署

何郡何町村

何神社祠官或ハ祠掌

何 之 誰 印

最寄重立神官
二名以上連署

長 官 宛

社 寺

一三一

履歷書雛形

履 歷 書

何府(縣)何國何郡何町何番地士族
 何ノ誰長次男或ハ弟又ハ何某附籍
 何府(縣)何國何郡何町何神社祠官
 職名 姓 名

年月日生

何 府 縣

太政官舊教部省或ハ
内務省又ハ管長姓名

何 府 縣

姓 名 印

何年何月何日
 任社格何神社何々或ハ祠掌申付候事
 何年何月何日
 補何々或ハ試補申付候事
 何年何月何日
 社格何神社祠官認可
 年 月 日
 右ニ照准年月日ヲ追ヒ記載可致事
 ○達庶第二四三號 明治二十年十月三十一日

招魂社并官軍墳墓修繕及掃除監査ノ義自今所轄戸長役場へ擔當セシメ左ノ項目ニ依リ取扱ハシムル事

但本文ノ趣招魂社受持神官并墳墓監守人へ遠方取計フヘシ

一 招魂社并官軍墳墓修繕ハ實際修繕ヲ要スルトキ目論見仕様書ヲ以テ縣廳へ伺出テ許可ヲ受クヘシ

一 前項修繕ノ箇所落成ノ上ハ精算書ヲ添へ金員受取方縣廳へ申出ツヘシ

一 招魂社并官軍墳墓ハ常ニ監守人ヲシテ掃除ヲ怠ラサズシメ時々實地ニ臨見シ不行届ノ箇所アルトキハ即時之ヲ洒掃セシムヘシ

○訓令乙第五十二號 明治二十年十一月二日 戸長役場

内務省訓令第四十五號ヲ以テ内務大臣ヨリ左ノ通訓令相成候條其旨縣社以下祠官祠掌寺院住職氏子檀徒惣代氏子檀徒無之向ハ崇へ達シ置クヘシ

祓寺ニシテ若シ其社殿堂宇等祭祀法用ニ必用ナル部分ハ賣處分ヲ請タル場合ニ於テハ該處分ノ日ヨリ百日以内ニ再建ノ方法ヲ立テ關係者連署寺院管長副書ヲ以テ届出ルモノニ限リ建築ノ爲メ滿ニケ年間ノ猶豫ヲ與フヘシ百日ヲ經テ再建ノ方法ヲ不申出又ハ滿ニ簡年間ニ建築セサルモノハ明細帳ヲ削除スヘシ

○訓令丙第十一號 明治二十年十一月二日 戸長役場

官國幣社神職ヨリ縣社以下祠官祠掌ヲ兼ヌル節ハ明治十五年(九月)寸第四十三號達皇典講究本分所ノ試験ニ及ハサル儀ト心得ヘシ

○達庶第三十三號

明治二十三年
七月十二日

郡市役所

縣社以下祠官祠掌選舉ノ節試験規則及取扱心得ヲ相廢シ更ニ學階授與規則ヲ設ケ内務省
同濟ノ趣ヲ以テ別紙ノ通リ皇典講究所幹事長ヨリ届出ニ付其旨心得ヘシ

(別紙)

神官試験之儀ニ付伺

明治十五年御省乙第四十六號御達ニ依リ假ニ府縣社以下神官試験規則別紙寫之通伺定履
行致來候處學力ノ淺深優劣ニ依リ適當ノ證書不相渡候テハ受試験者ノ志望ヲシテ満足セ
シメサル場合モ有之候間最初ノ試験規則ヲ改正シ別紙學階授與規則ニ據リ試験證相渡申
度右ハ御差支無之候哉此段相伺候也

假試験規則ハ畧ス

明治二十三年四月十五日

皇典講究所副總裁

從一位 久我進通 印

内務大臣伯爵山縣有朋殿

(指令寫)

内務省指令甲第三五號

皇典講究所

本年四月十五日伺神官試験ノ件伺之通

明治二十三年四月二十四日

内務大臣 伯爵山縣有朋 印

學階授與規則

第一條 學業ノ深淺優劣ヲ品別スル爲ニ左ノ學階ヲ定ム

學正 自一等
至五等

司業 自一等
至八等

第二條 學正ハ總裁之ヲ授ケ司業ハ副總裁之ヲ授ケ

第三條 學正ヲ受ケタル者ハ本所ノ優待ヲ受クヘシ

第四條 何人ニ拘ハラズ學階ノ授與ヲ望ム者ニハ左ノ科目ニ依リ試験ヲ受ケシム

試驗科目

第一種

六國史 問題説明書取

令義解 同上

延喜式 同上

法曹至要抄 同上

源氏物語 同上

考證二題

作文三題 宣名体物語体唐宋文体

第二種

六國史 問題説明書取

令義解 同上

延喜式 同上

萬葉集 同上

考證二題

作文二題 宣命体唐宋文体

第三種

日本紀 講義書取

令義解 同上

作文二題 祝詞通俗文

第四種

古事記 講義書取

土佐日記 同上

第五種

古語拾遺 講義書取

作文一題 祝詞

古事記 同上
萬葉集 同上
職原抄 同上
作文一題 祝詞
祝詞式 同上

第五條 試驗第二種以上ヲ學正豫科目トシ本所ニ於テ之ヲ施行シ第三種以下ヲ司業豫選科目トシ分所ニ於テ之ヲ施行ス

第六條 試驗合格不合格ヲ定ムル法ハ試業定則ニ依ル

第七條 試驗合格ノ者ニハ第一號書式ノ學階證ヲ與フ

第八條 著述編纂書ヲ以テ學力檢定ヲ受ケ相當學階ノ授與ヲ望ム者ハ之ヲ許スコトアル

第九條 既ニ學階ヲ受ケタル者昇階ヲ望ム時ハ更ニ相當ノ試驗ヲ受ケシム

第十條 試驗ヲ望ム者ニハ第二號書式ニ依リ願書及學業履歷書ヲ差出サシム

第十一條 學階ノ授與及昇等ヲ望ム者ニハ試驗手数料トシテ金壹圓ヲ納メシム

第十二條 本所遠隔ノ地ニ居住スル者第二種以上ノ試驗ヲ望時ハ分所ヲ經テ出願セシム

第十三條 前條第二種以上ノ試驗ヲ分所ヲ經テ出願スル者アルトキハ本所ニ於テ其履歷書等ヲ點檢シ相當ノ願ト認ムルトキハ試驗科目ニ依リ問題ヲ下附スヘシ

第十四條 分所ニ於テ第三種以下ノ試驗ヲ施行シタルトキハ第三號書式ニ依リ選舉スヘシ

第十五條 新ニ學階ヲ受ケタル者ニハ第四號書式ニ依リ誓約書ヲ差出サシム

第十六條 左ニ掲グル者ハ學術優等ナルモ學階ヲ受クルコトヲ得ス

一 品行不正ノ者

一 犯罪處刑ノ者

一 身代限ノ處分ヲ受ケ辨償ヲ終ラサル者

第十七條 既ニ學階ヲ受ケタル者誓約書ニ違背シ又ハ前條ノ所業アル時ハ學階ヲ取上ケ

公告ノ手續ヲナスコトアルヘシ

第一號學階證書式 用紙鳥ノ子四ツ切

氏 名

試驗ノ成跡ニ依リ何等學正(司業)ヲ授ク

年
印月所
日

皇典講究所總裁(副總裁)

氏 名

第二號書式

試驗願書

私儀今般學業ノ試驗相受度(學階昇等致度)志願ニ付別紙學業履歷書御點檢ノ上第何種科目ヲ以テ御試驗被成下度此段奉願候也

族籍住所

年月日

氏

名

印

年月日生

本所(分所)宛

別紙

學業履歷書

族籍住所

氏

名

年月日生

一何年何月ヨリ何年何月マテ何學校(塾)ニ入り(何某ニ就キ)何學校修業
一何々 學術上ニ係ル賞狀賞品免許狀卒業證書等ヲ所持スル者ハ其與ヘタル藩府縣學校教師及其書面物品員數等ヲ此ニ記載シ別ニ書面寫チ添フ
一何々 學術ヲ以テ選用セラレタル履歷アルモノハ其大概ヲ此ニ記載ス
一何年何月何等學正(司業)ヲ受ク 昇階ヲ望ム者ハ 此一項ヲ加フ
右之通相違無之候也

右

年月日

氏

名

印

右氏名學師(學友)

證人 氏

名

印

第三號書式

司業選舉狀

族籍住所

氏

名

年月日生

(朱書)

第何種試驗甲(乙、丙)等

右之者今般依願別紙學業履歷書ヲ點檢シ試驗施行候處朱書所標ノ通合格ニ付御詮議之上相當ノ學階御授與相成度此段選舉致候也

年月日

副總裁宛

教授 (重立) 印
理事 (三名) 印
分所長 (連署) 印

第四號書式

誓約書

私儀今般何等學正(司業)御授與相成候ニ付テハ今後右學階名稱ヲ汚スヘキ所業不致ハ勿論本所(本分所)諸規則ヲ遵守シ御指揮ニ違背致間敷候此段誓約仕候也

年月日

學階

氏名 印

右氏名學師(學友)

氏名 印

右氏名親戚

氏名 印

副總裁 宛

學階授與規則細則

第一條

學階授與規則第四條試驗取扱方ニ左ノ如シ

一 問題説明ハ書三件講義ハ書一件トス

一 書取時間ハ問題説明及講義ハ一件二時間作文ハ一題三時間考證ハ一題七十二時間トス

一 問題説明講義作文ハ何レモ試験場ニ於テ試験人面前ニ筆記セシメ考證ハ時限内隨所隨意ニ筆記セシム

一 司業豫試驗人ハ職員有之分所ハ長教授理事三名職員無之分所ハ委員三名以上トス
一 司業豫試驗書取書類ハ分所ニ保存シ置キ本所ニ於テ臨時取調ヲ要スル時ハ通知ニヨリ直ニ進送スルモノトス

第二條 學階授與規則第八條著述編纂書ヲ以テ學力ヲ檢定スルハ都テ本所ニ於テ取扱フモノトス故ニ遠隔ノ地ニ居住スルモノハ第十二條ニ準シ分所ヲ經テ出願セシム

但差出シタル書冊ハ返付セズ若別ニ贈本ナキカ又巻帙活翰等ニシテ必返付ヲ要スル場合ニ於テハ其理由ヲ添申セシメ且本人ヨリ運送費ヲ支辨セシム

第三條 學階授與規則第十一條試驗手数料ハ第二種以上ハ全額ヲ本所ニ納メシメ第三種以下ハ其半額ヲ分所ニ止メ其半額ヲ本所ニ納メシム

但本所ニ納付方ハ選舉狀進送ノ際相添ヘ差出スモノトス

第四條 學階授與規則第十三條本所ヨリ下附シタル問題ハ分所ニ於テ受験人ヲ召喚シ一題ツ、臨時之ヲ交付シ試験ノ手續履行ノ後答辨書取書類ヲ取纏メ本所ニ差出スモノトス

第五條

學階授與規則第十五條誓約書ハ學階證交付ノ際引換ニ差出サシム

第六條 學階ヲ受ケタルモノノ神官選舉ノ資格ハ左ノ如シ

府縣社祠官

五等司業以上

鄉社祠官

六等司業以上

府縣社祠掌

七等司業以上

鄉社社祠掌

八等司業以上

第七條 學階ヲ受ケタル者神官ニ選舉セラレタル時選舉狀ニ添フベキ學階證寫ニハ被選

地所轄分所ノ割印ヲ要セシム

第八條 學階ヲ受ケタル者神官ノ任免死亡等ハ各其類ヲ分テ分所ニ於テ毎月末ニ取調本

所ニ届出ルモノトス

第九條 試験不合格ノ者ハ滿六ヶ月間再試験ヲ受クルコトヲ得サルモノトス

(參看)

試業定則(摘要)

第一條 試業ノ成績優劣ヲ分テ甲(總評點全點)乙(總評點九十以上)丙(總評點六十以上)

ノ三種トス

第二條 試業評點ハ各科皆一百ヲ以テ全點トス

第三條 總評點全點五分ノ三(六十點)以上ヲ合格トシ其以下(六十點未滿)ヲ落第トス

但一科以上五分ノ二(四十點)ニ達セサルモノアルトキハ其他ノ各科全點ヲ得ルモ尙落第トス

○縣令第四號 明治二十四年 二月十八日

寺院財産ニ關スル諸願ニシテ地租條例ニ依リ出願ノモノニ限り自今本寺法類運署管長ノ

添書ヲ要セス

○達三第十五號 明治二十四年 三月四日

郡市役所

古社寺保存金下賜ノ社寺監督上ノ儀ニ付主務省ヨリ照會ノ次第モ有之ニ付自今主務課員

ヲ派遣シ下賜ノ金額及出願ノ際進達ノ方法書等ニ付臨時精査ヲ要スル義モ可有之候條此

旨豫テ相心得其向ヘ達シ置クヘシ

○達三第十六號 明治二十四年 三月四日

郡市役所

四百年以前建設ニ係ル古社寺ニシテ保存金下賜ヲ出願スルモノアル時ハ該社寺永續ノ方

法及建物保存資金醱集ノ方法等ニ對シ審査ノ上果シテ確實ト認ムルモノニ限り左ノ各項

ノ書類ヲ添付シ進達セシムヘシ

一 出願ノ事由ヲ記シタル願書

一 該社寺ノ永續方法書

一 建物保存資金醱集並仕拂方法書

一 建物ノ名稱坪數創建改造修繕ノ年月取調書

一 境内地及建物位置見取圖

○訓令第六十八號 明治二十四年 四月二十三日

郡市役所

今般農商務省令第五號ヲ以テ社寺土地官林委託規則發付ニ付該規則ニ依リ官林ノ委託ヲ受ケタル神社ハ政府ニ對シ損害賠償ノ責ニ任スヘキ筋ニ有之然ルニ神宮自身ニ屬スル所爲ト又神社ノ爲メ作スルモノトノ別アルヨリシテ責任歸着ヲ異ニセルハ勿論ナレトモ亦之レカ區分難相立場合アルノミナラス神社ノ爲メニスルモ神宮ノ專斷ニ依リ損害ヲ惹起スコトナシトセス依テ適宜神官限リ執行スル事項及ヒ豫シメ氏子等關係人ノ協議ヲ要スル事項ト神官ノ負フ可キ責務ノ區畫相立候様其筋ヨリ通知相成候條右事項相定メ不都合無之様注意方々示達スヘシ

郡市役所
町村役場

○達三第三十六號 明治二十四年 五月二十九日
社寺境内官有地ヲ一時他人ニ使用セシムルトキハ使用人ヨリ出願セシメ來リ候處自今該社寺ヨリ借用人名使用ノ事由ヲ詳記シ所轄郡市役所へ出願スヘシ又祭典及縁日法會開扉等ニ際シ使用セシムルハ該社寺限リ承諾スルモ苦シカラス候條此旨官國幣社神職縣社以下祠官祠掌及寺院住職へ無洩相達スヘシ

郡市役所

○達三第四十六號 明治二十四年 七月三日
社寺境内官有地ヲ一時他人へ貸渡ノ儀ハ使用人ヨリ出願セシムルニ及ハス候條自今該社寺ヨリ借用人名使用ノ事由ヲ記シ出願候ハ、從前ノ手續ニ據リ遂實査認可スヘシ

郡市役所

郡市長委任條件第十二項ニ據リ社寺境内一時貸渡ヲ許可セシトキ借受人ヨリ納ムル處ノ料金ハ社寺ニ於テ徵收セシメ同時ニ其金額ヲ届出サセ而シテ該金員交付ノ手續ヲ爲スヘシ
但明治二十年訓令甲第四十七號社寺境内貸渡料金徵收ノ件ハ廢止ス
○達三第四十八號 明治二十四年 七月十一日

郡市役所
町村役場

明治十二年九月二十九日本縣無號達ヲ以テ縣鄉村社祠官祠掌へ下付セシ神官奉務規則今般左ノ通改正相成候條其旨無洩神官へ相達スヘシ

府縣鄉村社神官奉務規則

第一條 神官ハ神明ニ對シ尊崇悃誠ヲ主トシ典例ニ從ヒ各其本務ヲ盡スヘシ
第二條 神官ハ祭祀ノ典則舊來ノ儀式ヲ遵守シ決テ紛亂スヘカラス其社ノ例祭民俗因襲ノ神賑等ハ適宜行フコトヲ得
但臨時祭ヲ行ハントスルトキハ所轄警察署又ハ分署へ届出ツヘシ

第三條 神宮ハ人民ノ請求ニ應ジ神符神像等ヲ授クルハ妨ケナシト雖トモ苟モ貪汚ノ所爲アルヘカラス

第四條 神宮ハ社殿及其境内ヲ清潔ニシ修造取締等當ニ意ヲ注キ舊觀ヲ失墮セズ汚穢破損ニ至ラシムヘカラス

第五條 神宮ハ神社所藏ノ寶物什器及古文書類ヲ監護シテ散逸セシムヘカラス如何ナル場合ト雖トモ賣却讓與又ハ質入書入スヘカラス

第六條 神宮ハ神社所有ノ財産ヲ管理シ金穀ヲ出納スヘシ

第七條 神宮ハ其管理ニ係ル不動産積立金穀ヲ濫リニ賣却讓與又ハ質入書入スヘカラス若シ不得止必要アルトキハ氏子又ハ信徒ノ協議ヲ經地方廳ノ許可ヲ受クヘシ

第八條 神社ニ委託山林アルトキハ其栽植伐採其他山林ノ保護ニ注意シ損害ヲ來スカ如キコトナカラシムルヲ要ス

第十編 會計

第一章 租稅外收入 現金前渡

○訓令甲第三十二號 明治二十一年六月十六日

郡 役 所

貸下金整理順序左ノ通相定ム

貸下金整理順序

- 第一條 貸下金ノ徵收ハ明治十九年(三月)閣令第三號歳入歳出出納規則ニ準據スヘシ
- 第二條 貸下金ハ左ニ掲クル科目ニ分テ整理スヘシ
 - 一 舊藩貸 従前ノ舊藩ヲ云フ
 - 二 勸業貸 従前ノ勸業貸ヲ云フ
 - 三 繰替貸 豫備金繰替金等ヲ云フ
従前ノ救助貸雜貸官方貸外國債石高貸並從來雜收入トシテ納入スヘキモノ諸過渡金諸拂下代諸貸下料其他訴訟入費償却金等ノ類ニシテ年月賦若クハ置据ノ後上納スヘキ者及ヒ身代限りノ處分ヲ受ケ追テ身代持直次第上納スヘキモノヲ云フ
- 第三條 毎月徵收濟ノ金額ハ歳入報告書及ヒ任譯書ヲ調製シ國庫金出納所ヨリ送付スル歳入金毎月報告表ト符合一致ノ上之ヲ添付シ翌月十日限り差出スヘシ
- 第四條 負債主及ヒ證人代換改姓名等之アルトキハ臺帳ニ記入シ其旨ヲ報告スヘシ
- 第五條 返納期限及金額異動ノトキ其許可ノ指令ヲ受ケタルトキハ臺帳ニ記入シ七日以

租稅外收入 現金前渡

一三七

内別紙書式ニ據リ請證ヲ徴シテ差出スヘシ

第六條 返納期限ニ至リ未納ノ者ハ其事由ヲ詳記シ期限後七日以内報告スヘシ

第七條 負債主甲郡ヨリ乙郡へ轉居セシトキ甲郡役所ハ臺帳ニ據リ計算書ヲ製シ乙郡役

所へ送達スヘシ乙郡役所ハ送達書到達セシトキハ領收書ヲ發シ直ニ其旨ヲ報告スヘシ

第八條 負債主失踪又ハ身代限ノ處分ヲ受ケタルトキハ臺帳ニ據リ計算書ヲ調製シ差出

スヘシ

第九條 負債主他府縣へ移轉ノトキハ計算書ヲ以テ届出ヘシ

第十條 負債主失踪又ハ他ノ負債ニヨリ身代限ノ處分ヲ受ケタルトキハ證文下ケ渡方ヲ

申出證書下付ノ上ハ其寫並計算書相添裁判所ニ請求スヘシ

第十一條 前條ノ手續ヲナシタル未裁判所ヨリ配當金ヲ領收セシトキハ其旨ヲ報告スヘ

シ

但配當金不足アルトキ及負債主失踪等ニ因リ成規ノ通裏書ノ上交付セラレタルトキハ

其事由ヲ臺帳ニ記入シ證文ハ七日以内還納スヘシ

第十二條 單身負債主死亡シ明治十七年第二十號公布ニヨリ絶家セシトキハ臺帳ニ記入

シ其旨ヲ報告スヘシ

第十三條 負債主身代限處分ニ係ル配當金ハ相當科目ヲ以テ納付スヘシ

第十四條 負債主身代限ノ處分ニ係ル未納金ハ臺帳ニ返納年度未定ト記入シ其旨ヲ報告

スヘシ若シ三十六ヶ月經過ノ後尙徴收ノ途ナキトキハ臺帳ニ還納年度未定ト記入シ其

旨ヲ報告スヘシ

第十五條 身代限ニ付辨償ヲ了セサル者及失踪者ノ復歸ナルト否等ヲ常ニ注意シ毎年兩

度(空月十二月)其實況ヲ取調翌月十五日限ニ報告スヘシ其旨ヲ報告スヘシ

第十六條 貸下返納金ハ毎年四月二日ヨリ翌年三月三十一日マテニ現收シタル額ヲ以テ

一週年度ノ決算書ニ

(用紙美濃紙)

證

金高相當ノ證券印

紙ヲ貼用スヘシ

一金何程 但何々(拜借金種)拜借返納金又ハ殘金

是ハ内金何程ハ明治何年ヨリ何年マテ一ケ年何程宛返納殘金何程ハ何年ヨリ何年マ

テ一ケ年何程宛返納(年賦ノ金員詳細記載スヘシ)

右金員(毎年何月限リ)返納之儀御開届相成候ニ付テハ前書ノ通無相違返納可仕候爲後證如件

住所族籍 拜借人 何 之 誰

年月日 同

證人 何 之 誰

山形縣知事何之誰殿

租稅外收入 現金前渡

租税外收入 現金前渡

一四〇

○訓令第四號 明治二十四年 一月十七日

郡役所 直税分署

租税外諸收入ヲ取扱フ收入官吏ヨリ會計規則第九十五條第九十七條第九十九條ニヨリ計算書ヲ差出ストキハ郡長又ハ署長ニ於テ收入簿並現金出納簿ト符合ヲ認メ其保證書計算書毎ニ區分シ差出スヘシ
○遼四第一號 明治二十四年 一月九日

郡役所 直税分署

二十三年度以降租税外歳入金收入ノ際納入告知書誤記訂正方別紙ノ通大藏大臣ヨリ達ニ依リ自今右ニ據リ取扱フヘシ

別紙 大藏省第四九七七號 明治二十三年 十二月二十五日

二十三年度以降租税外歳入金收入ノ際納入告知書ニ主管廳取扱應及收入官吏官氏名ヲ誤記セシコトヲ發見スルトキハ其都度訂正方經同ノ上處分シ來リ候處自今右ノ誤謬ハ其發見シタル時々納入告知書ヲ發シタル官吏ヨリ收入官吏ヲ經テ當該金庫ニ照會シ收入官吏拂込書ヲ以テ收納シタルモノハ該收入官吏ヨリ直ニ當該金庫ニ照會シ當該金庫カ其照會ニ應ジ訂正シタル月ニ於テ等シク收入簿ヲ訂正スヘシ

右相違ス

○訓令第八十號 明治二十四年 六月十日

郡役所

現金渡ヲ受ケタル官吏ヨリ提出スル仕拂計算書ノ殘高ニシテ金庫ニ返納セシ金額ニ對シテハ揮テ金庫ノ領收證書(收入官吏ニ納付セシトキ)ヲ添付證明スヘシ
但二十三年度分ニシテ既證明ニ係ルモノハ此際取纏メ提出スヘシ
○訓令第七十八號 明治二十四年 五月二十九日

郡役所 直税分署

租税外諸收入ヲ取扱收入官吏並ニ現金前渡ヲ受タル官吏交迭ノ際後任者ニ事務引繼ヲナシタルトキハ自今左ノ書式ニ據リ其時々差出ヘシ

收入官吏並ニ現金前渡ヲ受ケタル官吏異動調

在職廳名	取扱タル 主管廳名	前任者 官名氏名	後任者 官名氏名	事務引繼年月日

租税外收入 現金前渡

一四二

租税外收入 現金前渡

一四三

(現金前渡ヲ受ケタル官吏ノ分ハ主管廳名ヲ不要)
 ○訓令第四十七號 明治二十三年七月七日

郡 役 所

收入官吏交替之節證明スヘキ收入計算書ノ儀ニ付左ノ通大藏大臣ヨリ訓令有之候條此旨
 心得ヘシ
 大藏省達 明治二十三年六月十四日
 明治二十三年度以後當省管理ニ屬スル歳入ノ收入官吏交替ノ節ハ會計規則第九十九條ニ
 據リ左ノ書式ヲ以テ證明スル義ト心得ヘシ

明治何年度何款收入計算書面之通

相違無之候也

明治何年何月何日

收入官吏氏名印

會計検査院長宛

收入 濟 額			未 收 入 額		備 考
前年度未 收入分	本 年 度 分	計	缺 損 額		
圓 錢 厘	圓 錢 厘	圓 錢 厘	圓 錢 厘	圓 錢 厘	
(10)	0	0	0	0	
(10)	0	0	0	0	
1000	0	0	0	0	
(10)					
(10)	0	0	0	0	
(10)	0	0	0	0	
1000	0	0	0	0	
10	0	0	0	0	

租税外收入 現金前渡

一四三

租税外收入

現金前渡

一四五

昭和何年何月何日

現金前渡計

現金前渡計

名 (又ハ支部局) 應

〇印ハ朱

- 一 本計算書ニ附帯セル明細書ハ追テ定ムルマ
- 二 本計算書ノ仕譯書ヲ添付スヘシ
- 三 本計算書收入額中現金ヲ領收スル收入官吏
- ニ於テ其領收セシ金額アルトキハ總計ノ備考
- ニ於テ其員ナシキハ
- ニ於テ其質堅牢ナルモノヲ用ユヘシ

凡例

租税外收入

現金前渡

一四四

調定濟額			目番號	摘要
前年度未 收入高	本年 額通知高	計		
圓 銭 厘	圓 銭 厘	圓 銭 厘		
				第何項 何々(項)
				何々(目)
				何々(目)
				第何項計
				第何項 何々(目)
				何々(目)
				何々(目)
				第何項計
				總計

○訓令第二十八號 明治二十三年三月二十二日

郡 役 所

諸收入ノ内郡長委任條件ニ附帶ナル歳入ノ外猶左記ノ料金徴收方取扱フヘシ

一 免許及手数料

一 官業及官有財産收入

一 雜收入

一 官有物拂下代

○訓令第三十三號 明治二十三年三月十九日

郡 役 所

諸收入收納取扱順序左ノ通相心得明治二十三年四月一日ヨリ施行スヘシ

但從前ノ諸邊並ニ指令等本文ニ抵觸スルモノハ廢止ス

諸收入收納取扱順序

第一條 各官衙ハ此順序ニ依リ租稅外ノ諸收入ノ收納ヲ取扱フヘシ

第二條 歳入ノ年度所屬及毎年度所屬歳入金ヲ金庫ニ於テ納入スルハ明治二十二年四月

勅令第六十號會計規則第一條及第三條ニ據ルヘシ

第三條 郡長ハ毎年度所屬ノ歳入金ヲ豫算シ附録第一號書式ノ概算ヲ調製シ是ニ第二號

書式ノ前年度ノ豫算ニ比シ増減ノ理由ヲ説明シ前々年度三月十五日迄ニ差出スヘシ

但農商務省主管ノ分前々年度二月十五日迄ニ差出スヘシ

第四條 歳入概算月額金庫區分表ハ附録第三號書式ノ通調製シ歳入概算書ト共ニ差出ス

第五條 郡長ハ諸收入ヲ調製シ各納入ニ對シ附録第四號書式ノ納入告知書ヲ發シ各納入

ヲシテ現金ヲ金庫ニ納付セシムヘシ

但現金ヲ收入官吏ニ即納セシムル場合ニ於テハ納入告知書ヲ發セサルモ妨ケナシ

第六條 諸收入ヲ調定シタル官吏ハ納入告知書ヲ發シタルモノト發セサルモノトノ區分

ヲナシ附録第五號書式ニヨリ毎半月分ノ調定濟報告書ヲ調製シ毎月十六日及翌月一日

ニ之ヲ差出スヘシ

第七條 納入告知書ハ收入官吏ニ送付シ收入官吏ヲシテ納入ニ交付セシムヘシ

第八條 收入官吏ハ納入告知書ノ送付ヲ受クルトキハ附録第六號書式ノ收入簿調定濟ノ

欄ニ其金額ヲ登記シ納入告知書ハ直ニ納入ニ送付スヘシ

但第五條但書ノ場合ニ於テハ其領收スヘキ金額ノ確定セシトキ收入簿調定濟ノ欄ニ其

金額ヲ登記スヘシ

第九條 納入告知書ハ納金ト共ニ持參セシメ收入官吏ニ納付スルモノハ納入告知書ニ照

シテ現金ヲ收納シ附録第七號書式ノ領收書ヲ發スヘシ

第十條 納入ヲシテ現金ヲ金庫ニ納付セシメタルトキハ收入官吏ハ會計規則第二十九條

ニ據リ金庫ノ發シタル領收書ヲ檢シ附録第六號書式ノ收入簿ニ收入濟ノ記入ヲナシ領

收證書式ノ場所ニ捺印シ別符ヲ切離シ領收證書納入ニ返付スヘシ

租稅外收入 現金前渡

明治二十
四年三月
訓令第五
十二號
同上

租稅外收入 現金前渡

一五三

第十一條 收入官吏現金ヲ領收シタルトキハ附錄第六號書式ノ收入簿ニ收入濟ノ記入ヲ
ナシ附錄第八號書式ノ現金拂込書ヲ製シ現金ニ添出納官吏現金取扱規則第十五條ニ定
メタル期限内ニ之ヲ金庫ニ送付スヘシ

第十二條 收入官吏其拂込金ニ對シテ金庫ヨリ領收證ヲ得タルトキハ三日以内月末ノ分
ハ翌月一日ニ之ヲ調定官ニ送付シ檢印及別符ノ切離ヲ受クヘシ

第十三條 調定官ハ收入官吏ノ送付シタル金庫ノ領收證ヲ檢シ收入檢定簿ヲ備ヘテ之レ
ニ登記シ領收證書ノ場所ニ檢印シ別符ヲ切離シ領收證ヲ收入官吏ニ送付スヘシ

第十四條 調定官ニ於テ收入官吏ノ送付シタル領收證ヲ檢スルトキハ其檢定報告書ヲ製
シ翌月七日迄之レヲ本縣ニ差出スヘシ

第十五條 現金ヲ領收スル收入官吏ハ附錄第九號書式ノ現金出納簿ヲ備ヘ現金出納ヲ登
記スヘシ

第十六條 二十二年十二月大藏省訓令第七十二號金庫出納事務規程ニ依リ附錄第十號書
式ノ如キ金庫ヨリ歳入金月計對照表甲乙二葉並ニ各證憑書ノ送付ヲ受ケタルトキハ之
ヲ調査シ相違ナキモノハ甲號表ヲ留メ置乙號表ニ式ノ如ク證明シ若シ相違アルモノハ
其理由ヲ示シ三日以内ニ金庫ヨリ送付セシ各證憑共返付スヘシ

第十七條 收入官吏ハ附錄第十一號書式ニ準シ毎月收入報告書ヲ製シ左ノ審類ヲ添ヘ翌
月七日迄ニ之ヲ調定官ニ差出スヘシ

第一 納入告知書ノ金額納期日細別表附錄第十二號書式

第二 收入金月計對照表 出納所ヨリ差出シタル者

第三 納期日后未納收入事由明細書 附錄第十三號書式

右ノ外缺損金有之節ハ右明細書ヲ添付スヘシ

第十八條 調定官ニ於テ前條報告書送付ヲ受ケタルトキハ三日以内ニ之ヲ取纏メ本縣ニ
差出スヘシ

第十九條 過誤納金ヲ發見シ其拂戻ヲ要スルトキハ附錄第十四號書式ノ下戻計算書ヲ製
シ差出スヘシ

第二十條 郡長ノ備フヘキ諸收入調定元帳其他收入事務整理上必要ナル帳簿ハ便宜ノ式
ニ依リテ設置スヘシ

第二十一條 他省ノ管理ニ屬セサル租稅外ノ諸收入ハ總テ大藏省主管トシ收納スヘシ

第二十二條 第十七條ノ收入報告書ハ本月分ニ異動ナク單ニ前日迄累計額ノミニ係ルト
キハ提出ニ及ハス其旨報告スヘシ

○訓令第一百號 明治二十四年
九月二十六日

郡 役 所
直 稅 分 署

租稅外ノ現金ヲ領收スル收入官吏及現金前渡ヲ受ケタル官吏交替ノトキハ檢査員派出ノ
都合モ候條豫メ事務引繼期日ヲ定メ報告スヘシ

○訓令第三十九號 明治二十三年
五月三日

租稅外收入 現金前渡

一五三

郡 役 所

現金前渡取扱順序別冊之通相定メ二十三年度ヨリ施行ス
但別冊ハ別ニ頒付ス

現金前渡取扱順序

- 第一條 徴兵檢丁旅費並ニ徴兵署同検査署ニ於テ要スヘキ備品費(修繕共)筆紙墨文具消耗品雇人料通信運搬費雜費及窮民救助費棄兒養育費電信柱敷地手當等ハ會計法第十五條ニ依リ郡長又ハ郡書記ニ現金前渡ヲナスヘシ
- 第二條 徴兵費ハ其所要期日十日以前ニ窮民救助費棄兒養育費ハ每期渡高及氏名事由等ヲ詳記シ其請求書ヲ仕拂期月ニ隨ヒ別紙科目表ニヨリ各目ニ區分シ電信柱敷地手當金請求書ハ二十三年五月十日訓令第四十號ニ依リ差出スヘシ
- 第三條 前條請求ノ金員ハ金庫ヨリ送金スヘキニ付會計主務官ヨリ交付スル領收證書ニ年月日ヲ記入シ署名捺印ノ上直ニ金庫ニ送付スヘシ
- 第四條 總テ現金ヲ債主ヘ支拂ハシトスルトキハ金額其他ノ事項相違スル所ナキヤヲ調査シ領收證ト引換ヘ交付スヘシ
- 第五條 前條仕拂タル金額ハ別冊第一號書式ノ現金出納簿並ニ第二號書式ノ現金出納内譯簿ヲ設ケ出納ヲ登記スヘシ
- 第六條 現金前渡ヲ受ケタル金額ハ各目ヲ流用スルコトヲ得ス
- 第七條 前渡金ノ精算上過剩金ヲ生シタルトキハ返納告知書ヲ發スルニヨリ其告知書ニ

明治二十
四年二月
訓令第十
七號

現金ヲ添ヘ指定ノ金庫ニ納付シ金庫ノ別符付領收證ヲ得テ直ニ其別符ノ切離及領收證ノ檢印ヲ仕拂命令官ニ請求スヘシ

第八條 現金仕拂了リタルトキハ會計検査院ノ検査判決ヲ受クル爲メ毎月一回別冊第三號書式ノ仕拂計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ其仕拂了リタル日ヨリ十日以内ニ本廳ヘ差出スヘシ

第九條 左ノ事項ヲ仕拂計算書備考ニ記載スヘシ

但事項ノ複雑ニ涉ルモノハ説明書若クハ其所由ヲ確認シ得ヘキ書類ヲ添付スヘシ

一 支拂期限ノ定リタル給額ニシテ其期日ニ先チ又ハ後レテ支拂ヲナシ若クハ死亡等ノ事故ニヨリ支給ヲ止メタルモノアルトキハ其金額事由

二 檢査上批難ヲ受ケタル事項ニ對シ更正又ハ追給ヲナシタルトキハ其金額事由

三 誤拂過渡等ノ返納ニヨリ歳入ニ編入シ又ハ編入スヘキモノアルトキハ其金額事由

第十條 支出證明上ニ要スル證憑書類ハ正當請取人ノ領收證書其他事實ノ確實ヲ證スル書類トス

第十一條 旅費領收證書ニハ其用務發着年月日里程宿泊地名等ヲ詳記スルモノトス

第十二條 證憑書類ノ編纂ハ各目ニ區分シ其科目金員枚數ヲ表記スヘシ

第十三條 前各條ノ外會計法、會計規則、支出證明規程(二十二年十一月十一日官報)等ニ據ルモノトス
二十三年度内務省所管歳出科目表

款

項

目

節

租稅外收入

現金前渡

一五五

租稅外收入

現金前渡

一五九

支出精算高			殘 高			證 書 番 憑 冊 號	備 考
圓	錢	厘	圓	錢	厘		
	2000	0					
	10000	0					
	12000	0					
	0			0			
	0			0			
	120			3000	0		本月中返納濟 (或、何々)

租稅外收入

現金前渡

一五八

明治何年度何年何月仕拂計算書面之通相
違無之候也

現金前渡ヲ受ケタル官吏ノ官氏名印

會計検査院宛

明治何年何月何日

十三 電信線路保守費

電信柱敷地手當

租稅外收入 現金前渡

一六一

明治何年度府縣稅

何年何月

仕拂計算書

山形縣

第三號書式

用紙ハ印刷局製機二號紙又ハ類似ノ紙質堅牢ナルモノ

元 受 高			目番號	摘 要
前月越高	本月領收高	計		
圓 錢 厘	圓 錢 厘	圓 錢 厘		
0	150 00 0	150 00 0	4 11	第二項 徵兵費 備品費 內國旅費 第二項
0	0	0	3	第三項 恩賞及救助費 救助費 第三項
0	0	0		第十三項 雜給
0	150 00 0	150 00 0	4	養育費 第十三項 總計

租稅外收入 現金前渡

一六〇

租稅外收入 現金前渡

年月日		摘要	借方			貸方			残		
			圓	錢	厘	圓	錢	厘	圓	錢	厘
何	何	元受高				100	00	0	100	00	0
	何	檢丁旅費何某渡	25	00	0						
	''	一''一何某渡	25	00	0						
	''	一''一何某渡	50	00	0						

一六三

租稅外收入 現金前渡

年月日		摘要	借方			貸方			残		
			圓	錢	厘	圓	錢	厘	圓	錢	厘
何	何	元受高							0		
	何	何某渡何月ヨリ何							0		
	''	月マテノ分							0		
	''	何某渡何月分							0		

一六二

第二號書式

現金出納内譯簿

租稅外收入

現金前渡

一六五

何 官

何 之 誰

徵兵費

備品費

年月日	摘要	借方			貸方			残		
		圓	錢	厘	圓	錢	厘	圓	錢	厘
	元受高 何某波何 上代何 一,一何 殘金戻入 ~返納				50	0	0	50	00	0
		18	00	0						
		2	00	0				30	00	0
		30	00	0						
	合計	20	00	0	50	00	0			
	扣除高				30	00	0			
	純合計	20	00	0	20	00	0			
	本帳簿各目毎ニ口坐ヲ設ケ一人別ニ詳記 スルモノトス									

租稅外收入

現金前渡

一六四

第一號書式

現金出納簿

何 官

何 之 誰

租稅外收入

現金前渡

一六七

年月日	摘要	受			拂			残		
		圓	錢	厘	圓	錢	厘	圓	錢	厘
何	徵兵費備品費何金	5000		0						
何	庫ヨリノ受取									
何	一、内國旅費一、	10000		0				15000		0
何	徵兵檢丁旅費何某				10000		0			
何	外何名渡				2000		0		3000	0
何	何用何品代何某渡									
何	殘金何金庫へ戻入				3000		0		0	

本帳簿ハ各科目ニ分テ出納ノ都度記入スルモノトス

租稅外收入

現金前渡

一六六

○用紙美濃紙決算附屬表

何郡明治何年度前半年雜種稅中月日及屠畜稅現在員數表

科目	件	曲尺六分												
		月	〇	寸	分	〇	分	〇	分	〇	分	〇	分	
幫間	平等	十五日前	何	人	何	人	何	人	何	人	何	人	何	人
		十六日後	何	人	何	人	何	人	何	人	何	人	何	人
藝妓	何等													
	何等													
遊技場	平等	何	等	何	日	何	日	何	日	何	日	何	日	何
	何等													
市場	牛馬市													
	何々市													
一人分收金何程														

興行劇	遊覽所	屠畜	
		牛	羊豕
	一人分見料金何程		
		何	頭
		何	頭
		何	頭
		何	頭
		何	頭
		何	頭
		何	頭
		何	頭
		何	頭
		何	頭

右之通相違無之候也

年 月 日

山形縣長官宛

○訓令甲第二十九號 明治二十年 五月十四日

何郡長姓名印

郡 役 所

納稅取調委員設置規程左ノ通相定ム

納稅取調委員設置規程

第一條 地方稅中營業稅雜種稅調查ノ爲メ納稅取調委員ヲ置ク

但委員ノ定員ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第二條 納稅取調委員ハ各郡役所ニ於テ便宜町村組合ヲ設ケ其組合町村内ニ於テ營業稅雜種稅ヲ納ムル營業者ノ互撰投票ヲ以テ之ヲ定ムルモトス

縣 稅

第三條 納稅取調委員ハ郡長ノ監督ニ屬シ各町村營業者ノ業体ヲ視察シ其負擔稅額ノ適否ヲ勘査スルモノトス

第四條 納稅取調委員ハ郡長ノ招集ニ應シテ郡役所ニ出勤シ町村營業者名簿ニ就キ簡數ヲ調査シ郡長ニ差出スヘシ

但簡數調査ノ方法ハ郡長ノ指揮ヲ受クヘシ

第五條 郡長ニ於テ納稅取調委員ヲ招集シ簡數ヲ調査セシムルハ縣廳ニ於テ通常縣會ニ付スヘキ豫算調理以前ニ於テスルモノトス

但時宜ニ依リ臨時招集スルコトアルヘシ

○訓令第六號 明治二十二年 五月三十一日

郡 役 所

今般山形米澤ノ二市街ニ市制施行相成候處納稅取調委員ノ設置區域ハ從前ノ通之ヲ存シ郡長ヲシテ其事務ヲ執行セシム

○訓令第六十二號 明治二十二年 十二月十日

郡 市 役 所

町 村 役 場

本年二月縣令第六號地方稅賦課方法第三十一條ニ據リ市役所又ハ町村役場ヨリ其所轄人民ニ下附スル營業鑑札費ノ儀ハ市役所ニ係ルモノハ地方稅取扱費町村役場ニ係ルモノハ郡吏員給料旅費及廳中諸費ヨリ支出スヘキ儀ニ候條此旨心得ヘシ

○縣令第十號 明治二十三年 二月十日

明治二十三年(三月)縣令第二十八號賦金徵收規則左ノ通り改正シ本年四月一日ヨリ施行ス

賦金徵收規則

第一條 貸座敷及ヒ娼妓營業ノ許可ヲ受ケタルモノハ免許證ノ寫ヲ添ヘ三日以内ニ所轄市役所又ハ町村役場ニ届出(娼妓ハ其等級ヲ附記シ)寄留主連署以下倣之)ヘシ

但從來稼續ノモノハ此際更ニ届出ヘシ

第二條 貸座敷及娼妓營業者ハ左ノ場合ニ於テハ其日ヨリ三日以内ニ所轄市役所又ハ町村役場ニ届出ヘシ

一 廢業及休業

一 改氏名

一 貸座敷轉居及代換

一 娼妓寄留換及等級ノ變更

第三條 貸座敷及娼妓ノ賦金ハ左ノ區別ニ從ヒ徵收ス

貸座敷賦金

貸座敷一戸ニ付一ヶ月金壹圓五拾錢

寄留娼妓一人ニ付一ヶ月五拾錢

娼妓賦金

縣 稅

明治二十三年四月十八號令第十

- 一等揚代金五拾錢以上一ヶ月金貳圓
- 二等揚代金四拾錢以上一ヶ月金壹圓八拾錢
- 三等揚代金三拾錢以上一ヶ月金壹圓五拾五錢
- 四等揚代金三拾錢未滿一ヶ月金壹圓三拾錢
- 第四條 賦金ハ其翌月五日限り市役所又ハ町村役場ニ納ムヘシ但廢業者ハ即納ス可シ
- 第五條 娼妓等級ヲ變更シタルトキハ其翌月ヨリ變更ノ等級ニ依リ賦金ヲ徵收ス
- 第六條 左ニ記載シタル場合ハ日割ヲ以テ賦金ヲ免除ス
 - 一 妊娠滿六ヶ月以上分娩後百日以内
 - 一 疾病又ハ正當ノ事故ニ依リ鑑札返納ノ上休業中
 - 一 營業ヲ禁止又ハ停止(不納處分)シタルトキ
- 第七條 貸座敷及娼妓新規營業者若クハ廢業シタルトキハ其月ノ賦金ハ日割ヲ以テ徵收ス
- 第八條 貸座敷及娼妓營業者ニ於テ納期前他市町村へ移轉シ引續營業スルトキハ其月ノ賦金ハ後營業地ニ於テ徵收スヘシ
- 第九條 娼妓營業者第六條ノ場合ニ遭遇シ其休業全月ニ及フトキハ第三條貸座敷賦金ノ二項ニ掲クルモノヲ免除ス
- 第十條 貸座敷及娼妓營業者賦金ヲ不納スルトキハ其營業ヲ停止スヘシ但不納金ヲ完納スルトキハ更ニ營業スルコトヲ許ス親族其他ノモノ代納シタルトキ亦同シ
- 第十一條 第一條及ヒ第二條中等級ヲ變更ノ届出ヲ爲サハルモノハ五錢以上五拾錢以下

ノ科料ニ處ス
○訓令第十號 明治二十三年 二月十日

郡 市 役 所
町 村 役 場

今般縣令第十號ヲ以テ賦金徵收規則改正候ニ付テハ右賦金取扱手續左ノ通り相定ム

賦金取扱手續

- 第一條 市町村長ハ第一號書式ノ賦金收納臺帳ヲ調製シ規則第一條第二條ノ届出ヲ爲スモノアルトキハ之ヲ記入スヘシ
- 第二條 市町村長ハ賦金收納臺帳ニ據リ毎月末日ニ於テ第二號書式ノ一人別徵收傳令書ヲ製シ之ヲ各納人ニ發付スヘシ
- 第三條 市町村長ニ於テ徵收セル賦金ハ七日以内ニ山形市長ハ縣廳爲替方米澤市長ハ其爲換方町村長ハ郡役所爲替方へ差出シ各其預リ手形ヲ受ケ之ニ第三號書式ノ仕譯書ヲ添ヘ市長ハ知事ニ上納シ町村長ハ郡長ニ送付スヘシ
- 第四條 郡長ニ於テ町村長ヨリ前條ノ送付ヲ受ケタルトキハ第一號書式ニ準シタル賦金收納臺帳ヲ調製シ之ニ記入シ町村長ニ領收ノ證ヲ交付スヘシ
- 第五條 郡長ニ於テ前條ノ手續ヲ了シタルトキハ第三號書式ニ準シタル仕譯書ヲ添ヘ送金手形ヲ以テ知事ニ上納スヘシ
- 第六條 郡市長ハ第四號書式ノ興廢表ヲ調製シ左ノ期限ニ隨ヒ之ヲ縣廳ニ進達スヘシ

興廢表 四月ヨリ九月迄ノ分 其年十月三十一日限
 第七條 市町村長ハ貸座敷及娼妓營業者ニシテ賦金ヲ不納スルモノアルトキハ直ニ其不
 納人名及金員ノ一人別調書ヲ添ヘ營業停止ヲ所轄警察署又ハ分署ヘ請求スヘシ
 第八條 規則第八條ノ場合ニ於テハ甲市役所町村役場ヨリ其課額等級又ハ納不納等ヲ取
 調ヘ乙市役所町村役場ヘ通報スヘシ
 第一號書式(美濃紙)
 賦金收納臺帳

分月八	分月六	分月四	目種
一金 年月日領收	一金 年月日領收	一金 年月日領收	寄留娼妓何人
同	同	廢業休業 ノ理由並 入日ヲ記 スヘシ	由理
分月九	分月七	分月五	名氏籍族
一金 年月日領收	一金 年月日領收	一金 年月日領收	何市何町何番地 貸座敷營業 何某
同	同	同	由理

分月六	分月四	目種	合計	分月二	分月二十	分月十
一金 年月日領收	一金 年月日領收	何等娼妓		一金 年月日領收	一金 年月日領收	一金 年月日領收
同	廢業休業 ノ理由並 入日ヲ記 スヘシ	由理		同	同	同
分月七	分月五	名氏籍族	合計	分月三	分月一	分月一十
一金 年月日領收	一金 年月日領收	何市何町何番地 貸座敷寄留娼妓營業 何某		一金 年月日領收	一金 年月日領收	一金 年月日領收
同	同	由理		同	同	同

合計	分月二	分月三十	分月十	分月八
	一金	年月日領收	年月日領收	年月日領收
同	同	同	同	同
分月三	分月一	分月一	分月九	
	年月日領收	年月日領收	年月日領收	年月日領收
同	同	同	同	

第二號書式(半紙四ツ切り)用紙寸法適宜

第 號 何市町村大字何々 何 某 納

一金 明治何年何月分貸座敷(又ハ娼妓)賦金

何年何月何日納濟右明治何年何月何日限リ何市町村收入役へ納付アル可シ
 明治何年何月何日 何市町村長 何 某

第 號

一金 右領收候也
 明治何年何月何日 何市町村收入役 何 某
 何市町村大字何々 何 某 殿

第 號 何市町村大字何々 何 某 納

一金 明治何年何月分貸座敷(又ハ娼妓)賦金
 明治何年何月何日何市町村收入役へ納付
 第三號書式(半紙郵紙)
 何月分賦金徵收仕譯書

一金

內

何月分賦金

貸座敷營業者何戸分

寄留娼妓何人分

何等娼妓何人分

何等娼妓何人分

右之通候也

何市町村長 何 某

明治年月日

知事(又ハ郡長)宛

第四號書式(美濃紙ニツ切り)

明治 年 期分貸座敷並娼妓與廢表

種別	貸座敷營業者	娼妓				計
		一	二	三	四	
前期ヨリ越人員						
新就業者						
他ヨリ移轉者						
本期間ノ増						

休業者ノ復業セシ者

合計

本期間

廢業者

他へ移轉者

死亡及逃亡者

計

休業者

合計

本期末日現在員

○訓令第三十八號 明治二十三年五月一日

郡市役所 町村役場

明治二十二年(十二月)法律第三十二號ニ依リ地方稅及市稅町村稅滯納處分ニ付取扱方左ノ通心得ヘシ

但從前ノ指令等本文ニ抵觸スルモノハ取消ス

第一條 國稅滯納處分法第二條其他ニ掲ケル收入官吏ノ事務ハ地方稅ハ郡市長市稅ハ市參事會町村稅ハ町村長ニ於テ取扱フヘシ但地方稅滯納督促令狀ハ場合ニ依リ町村長ヲシテ之ヲ發セシムルコトヲ得

第二條 國稅滯納處分法第十二條ノ財產差押命令書ハ地方稅ハ郡市長之ヲ發シ市稅ハ市參事會町村稅ハ町村長之ヲ發ス可シ

第三條 市役所ニ於テ處分スル地方稅滯納處分費ハ其市ノ經濟ニ收入スヘシ

第一條但書ノ場合ニ於テ收入スル手数料ハ其町村ノ經濟ニ收入スヘシ

第四條 國稅滯納處分法第四十條ノ買受望人ナキ物件ノ市町村稅ニ屬スル買上ケ代金ハ特ニ費目ヲ設ケ雜支出ヨリ支辨スヘシ

第五條 國稅滯納處分法第十一條ノ囑托ハ市參事會及ヒ町村長ニ在テハ經由ヲ要セス直ニ他ノ市參事會及ヒ町村長ニ囑托スヘシ

第六條 市町村稅ノ督促ニ關スル規定ハ市制町村制第百二條ニ依ルヘシ

第七條 各滯納稅金扣除ヲ要スルトキノ順序ハ第一國稅第二地方稅第三市町村稅第四徵收費トス

○達一第十七號 明治二十四年三月五日

郡 市 役 所

明治二十三年一月達議第三號土地ニ係ル地方稅及市町村費不納者公賣處分調表式左ノ通

明治二十四年四月十六號

更正ス

但明治二十二年度分ニ限リ二十二年四月ヨリ十二月マテハ舊書式ニ二十三年一月ヨリ三月マテハ新様式ニ據リ二様ニ調製シ本月十五日限リ差出スヘシ (表式ハ報告例ニ詳カナリ)

○縣令第十四號 明治二十四年三月十三日

明治二十四年度地方稅收支豫算及營業稅雜種稅課目課額並地方稅賦課方法縣稅徵收法施行細則縣會ノ決議ヲ經左之通相定ム (縣稅徵收法施行細則ヲ除クノ外畧ス)

但支出豫算中教育費地方稅取扱費豫備費ノ三項並收入豫算及營業稅雜種稅課目課額賦課方法縣稅徵收法施行細則ハ府縣會規則第三十三條ニ依リ內務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

縣稅徵收法施行細則

第一條 徵收法第五條町村ニ對シ發スル徵稅令書ハ第一號様式ニ依リ各納稅人ニ對シ發スル徵稅傳令書ハ第二號様式ニ依リ調製スヘシ

第二條 徵收法第六條ニ依リ市長ニ於テ直ニ各納稅人ニ對シ發スル徵稅令書ハ前條第二號様式ニ準シ調製スヘシ

徵收法第七條ニ依リ委任ヲ受ケタル町村長ニ於テ發スル徵稅令書モ亦前項ニ準ス

第三條 市町村長ニ於テ地租割其他物件ヲ目的トセル賦課ノ徵稅令書又ハ傳令書發付後納期限以前ニ於テ土地又ハ物件ノ所有權移轉又ハ土地ノ質入ニ係ルモノアルトキハ發キノ徵稅令書若シハ徵稅傳令書ヲ更正スヘシ

縣 稅